２０２０
修士課程看護学専攻
履修案内

滋賀医科大学大学院医学系研究科

理　念　・　目　的　及　び　使　命

理　念

　滋賀医科大学は、地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学として、医学・看護学の発展と人類の健康増進に寄与する。

目的及び使命

大学院は，医学及び看護学の領域において，優れた研究者及び高度な知識と技術をもつ専門家を養成することを目的とし，もって，医学及び看護学の進歩と社会福祉の向上に寄与することを使命とする。

ポ　リ　シ　ー

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

１．看護学やその関連分野における十分な専門的知識及び研究技術を修得している。
２．高い倫理観を有し、研究倫理についての十分な知識を修得している。
３．これに加えて、コース毎に下記の能力や姿勢を有することを修了の要件とする。
　３－１．研究コースでは、新たな研究課題を見いだし、その解決のためのエビデンスを創出できる。
　３－２．高度実践コースでは、学生自身の専門領域における看護実践上重要な課題を抽出し、その解決のために最新のエビデンスを理解し、臨床応用実践できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

１．１専攻２コース（研究コース、高度実践コース）を設け、全大学院指導教員による横断的な指導体制とする。
２．共通科目と領域別科目をおく。
　２－１．看護学研究者として必要な基礎的知識と研究技術、研究倫理に関しては２コースの共通科目として教授する。
　２－２．領域別科目では、各専門領域の専門的知識と研究技術もしくは高度実践技術を教授する。
３．上記に加えて、コースの特徴に合わせた科目を設ける。
　３－１．研究コースでは、様々な研究課題に応じた最先端の研究方法や国内外の知見を教授し、看護学の発展に寄与しうる課題に関する特別研究を課すことで、創造的かつ自立した研究遂行能力を養う。
　３－２．高度実践コースでは、看護の基盤となる看護理論及び看護倫理等に加えて、各専門領域に特化した高度実践の看護技術を教授するとともに、専門分野における看護実践や看護介入に関する課題研究及び実習を課すことで、科学的エビデンスの臨床応用力を養う。

入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

○ 求める学生像
　１．看護学及びその関連分野での研究者や先進的なヒューマンケアサービスを提供する専門家としての資質を有する者
　２．高い倫理観と研究意欲を有する者
　３．上記に加えて、高度実践コースでは専攻分野における豊富な実践経験を持つ者
○ 入学者選抜の基本方針
　１．研究コースでは、①各専門分野の基礎知識と思考能力を問う「専門科目」試験、②科学的研究の遂行に必要な語学力を測る「外国語（英語）」の筆記試験、③研究意欲や倫理観等、研究者としての資質や適性を確認する「面接」を実施する。
　２．高度実践コースでは、①各専門分野の基礎知識と思考能力を問う「専門科目」試験、②志望する分野での研究課題等についての基礎的知識や研究意欲等を測るための「口述試験」を課す。

Graduate School of Nursing

◆Diploma Policy

To complete the Program, students shall meet the following requirements:

1. Acquire sufficient expertise and research skills in nursing science and related fields.
2. Have high ethical standards and sufficient knowledge about research-related ethics.
3. In addition to the above, the following additional abilities and attitudes for each of the courses listed below are required.

3-1. For the Nursing Research Course: the capability to identify new research challenges and to create evidence that leads to their solutions.

3-2. For the Advanced Nursing Practice Course: the ability to identify important challenges in each nursing specialty and comprehend the latest scientific evidence for the application in real clinical settings.

◆Curriculum Policy

1. By establishing two Courses at our Graduate School (The Nursing Research Course and The Advanced Nursing Practice Course), we provide our students with interdisciplinary education administered by our entire teaching staff.

2. The Graduate School stipulates several common and specialized subjects for both Courses.

2-1. Common subjects cover basic knowledge, research skills, and research ethics that are generally necessary for nursing scientists.

2-2. Specialized subjects cover the expertise necessary for each nursing specialty as well as research skills or advanced nursing skills.

3. In addition to the above, the two Courses each address specific subjects appropriate to their goals, as indicated below.

3-1. The Nursing Research Course nurtures students' ability to conduct research in an independent and creative manner by 1) teaching them the most advanced research methodologies for different research topics and providing them with the latest knowledge; and 2) providing students with special research tasks, related to existing challenges, that will lead to advances in nursing science.

3-2. The Advanced Nursing Practice Course enhances students' ability to apply scientific evidence in real clinical settings by 1) educating them not only about basic theories and ethics related to nursing but also about speciality-specific advanced nursing skills; and 2) providing them with research tasks and training related to speciality-related nursing practice and nursing intervention.

◆Admission Policy

Desired students:

1. Those who have the basic grounding required to become researchers in nursing science or related fields, or experts who provide advanced human care services.
2. Those who have high ethical standards and enthusiasm for research.
3. For the Advanced Nursing Practice Course, students with the above qualifications who also have rich practical experience in their specialized fields.

Student Selection:

1. The Nursing Research Course conducts (1) a Special Subject exam that tests students' fundamental knowledge and thinking abilities in their specialized areas; (2) a Foreign Language (English) writing exam that tests the language skills that are necessary for students to conduct scientific research; and (3) an interview that confirms students' passion for research, their ethical standards, and their qualifications and competency for becoming researchers.
2. Candidates for the Advanced Nursing Practice Course must take (1) a Special Subject exam that tests students' fundamental knowledge and thinking abilities in their specialized areas; and (2) an Oral Exam that evaluates students' fundamental knowledge and enthusiasm regarding research in their desired fields.

概　　要

看護学専攻の修士課程の教育目標

本学大学院修士課程看護学専攻は、２１世紀社会の健康問題に関する多様な要請に適切に応えるために、滋賀県で最初に設置された看護系高等教育機関である。

本学がこれまでに蓄積してきた研究や教育のノウハウ、さらに看護実践の成果や医学部看護学科ならびに附属病院と関連施設の教育資源を活用して、高度で先進的看護サービスを支える確かな専門的知識と看護技術をもつ優れた看護ケアの専門家、教育者及び研究者を育成し、実践と研究を通して看護学の発展に寄与することを目標としている。

上記の目標を基盤に、人間の尊厳や権利を尊重しながら、その存在を自然・社会・生活環境との関係において捉え、個人あるいは集団に有用かつ効果的な看護の理論と方法論を修得することで、国内はもとより海外においても活躍しうる人材の育成を目的とする。

また修士課程は、看護学の基礎を修めた者がさらに広い視野に立って専門分野の学識を深め、科学的思考能力や問題解決能力、基礎的な研究能力及び看護実践、看護教育、看護管理、看護行政等における指導能力を養うことを目的としている。

専門科目及び共通科目における講義、演習、臨地実習ならびに特別研究を通して、以下の能力を養う。

１．看護における知識や技術及び倫理を、科学的な根拠をもって各専門領域の看護実践に応用することができる。
２．ヘルスケアシステムの中で、看護実践及び看護管理に関する高度な専門知識と技術を発揮することができる。
３．保健・医療・福祉の専門職との協働において、看護専門職としての意志決定と主体的行動が執れるとともに、様々な状況においてリーダーシップを発揮することができる。
４．看護教育の理念と方法に関する高度な知識と技術を修得し、看護の専門性に誇りをもちながら優れた教育活動を実施することができる。
５．看護上の問題を見出し、主体的・創造的に研究活動を推進することができる。
６．新たな看護技術を開発し、また看護倫理を検証することにより、臨床へ応用することができる。
７．複雑で多様な人々の健康問題に柔軟に対応し、学術的及び国際的に活躍することができる。

カリキュラムの特徴

１．２つのコース

研究コースと高度実践コースの２つのコースを設けています。研究コースは研究者の養成を目的とした３つの研究領域があり、高度実践コースは高度で先進的看護ケアサービスを支える確かな専門知識と看護技術をもつ、優れた看護ケアの専門家の養成を目的とした２つの研究領域があります。

≪研究コースの各専攻領域≫

【基礎看護学研究領域】基礎看護学研究領域は、看護が対象とする人間を包括的にとらえ研究することによって、あらゆる看護実践に共通する基礎理論を見出し、看護の科学性を追求することを目指した領域です。「基礎看護学Ⅰ」は、看護科学を基盤においた看護教育、看護技術を研究課題としています。「基礎看護学Ⅱ」は、人を形態と機能の側面から科学的に探求し、看護実践に応用できる新しい知見の構築を目指しています。「基礎看護学Ⅲ」は、生きることの基盤である食と栄養に関わる看護の専門性を探求する看護栄養学について研究します。

【臨床看護学研究領域】臨床看護学研究領域は、高度な看護実践の場で用いられる看護介入を体系的に研究する領域です。成人看護学、老年看護学、小児看護学、ウイメンズヘルス看護学、精神看護学等の各分野でのエビデンス構築を目指しています。

【公衆衛生看護学研究領域】公衆衛生看護学研究領域は、すべての人々にとっての健康、安心や安全を整えること、健康格差の縮小、超高齢社会における地域包括ケア、健康的なコミュニティづくりなど、保健医療サービスのあり方や質の向上に寄与する知見や実践を探求する領域です。公衆衛生看護学、在宅看護学の分野でのエビデンス構築を目指しています。

≪高度実践コースの各専攻領域≫

【看護管理領域】

看護管理領域は、保健医療福祉を取り巻く環境の変化に対応できる幅広い知識をもち、看護管理能力やリーダーシップ能力、看護職の指導的能力及び倫理観を備えた看護管理実践者を育成し、質の高い組織的看護サービスの発展に寄与することを目指す領域です。

【特定行為領域】

特定行為領域は、看護の様々な実践領域での特定行為を担い得る卓越した知識と技術を有する高度実践看護師を育成し、その役割モデルを示すことで、実践領域における看護の専門性向上と臨床看護の発展に寄与することを目指す領域です。

２．自由に選択できる多様な授業科目

各自の研究テーマに合わせて、共通科目及び各研究領域の授業科目から、研究領域を越えて自由に選択することができます。

３．きめ細やかな研究指導

修士論文の作成に関連して、領域を越えたきめ細やかな指導が受けられるように配慮し、中間発表の場を設けています。

４．教育方法の特例

大学院設置基準第１４条「教育方法の特例」*を適用し、有職者が離職することなく修学し、教育・研究指導を受けることが可能になるよう、必要に応じて開講時間や開講時期を履修予定者と調整のうえで開講しています。

５．長期履修制度の導入

職業を有している等の事情により、修業年限（２年）を超えて一定の期間（３年）にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを願い出たときは、審査によりこれを認めることができる制度を設けおり、入学時又は第１学年在学時の定められた時期に願い出ることができます 。

*大学院設置基準第１４条

「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時期又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」

令和２年度　授 業 科 目 等 及 び 担 当 教 員

	研究領域/部門		授 業 科 目	授業形態	研究コース		高度実践コース				単位数	時間数	授業担当教員
					配当年次	必修・選択	看護管理領域		特定行為領域				
							配当年次	必修・選択	配当年次	必修・選択			
共通科目	全領域		看護学研究方法論Ⅰ	講義	1前	必修	1前	必修	1～2前	必修	2	30	立岡
			看護学研究方法論Ⅱ	講義	1後	選択必修	1～2	選択	1～2後	選択必修	2	30	河村
			看護学研究方法論Ⅲ	講義	1後		1～2	選択	1～2後		2	30	宮松
			看護学研究方法論Ⅳ	講義	1後	必修	1後	選択	1～2後	選択	2	30	荻田
			看護学研究方法論Ⅴ	演習	1通年	必修	1通年	選択	1通年	選択	2	60	各指導教員
			看護理論	講義	1後	選択	1後	必修	1～2後	選択	2	30	伊藤
			看護倫理	講義	1前	選択	1～2前	必修	1～2前	選択	2	30	中西
			看護管理学	講義	1後	選択	1後	必修	1～2後	選択	2	30	中西
			コンサルテーション論	講義	1後	選択	1後	必修	1～2後	選択	2	30	河村
			看護教育学	講義	1後	選択	1後	選択	1～2後	選択	2	30	桑田
			看護政策論	講義	1後	選択	1後	選択	1～2後	選択	2	30	中西
			臨床解剖生理学	講義	1前	選択	1前	選択	1～2前	選択	2	30	相見
			臨床薬理学	講義	1前	選択	1前	選択	1前	選択	2	30	佐々木
			臨床診断学	講義	1前	選択	1前	選択	1前	選択	2	30	遠藤
			看護学課題実習	実習	1通年	選択	－	－	－	－	2	90	各指導教員
	特定行為		疾病予防学	講義	1～2	選択	1～2	選択	1～2	選択	2	30	喜多
			フィジカルアセスメント	講義	1～2	選択	1～2	選択	1～2	選択	2	30	遠藤
			疾病・臨床病態概論	講義	1～2	選択	1～2	選択	1～2	選択	2	30	遠藤
			臨床推論Ⅰ	講義	1～2	選択	1～2	選択	1～2	選択	2	30	遠藤
			臨床推論Ⅱ	講義	1～2	選択	1～2	選択	1～2	選択	2	30	北川
			特定行為実践論	講義	1～2	選択	1～2	選択	1～2	選択	2	30	宮松
			特定行為実践演習	演習	1～2	選択	1～2	選択	1～2	選択	1	30	宮松
			診療看護実践論	講義	1～2	選択	1～2	選択	1～2	選択	2	30	宮松（臨床看護系・在宅のオムニバス）
研究コース	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	基礎看護学Ⅰ特論	講義	1前	選択	ー	ー	ー	ー	2	30	中西
			基礎看護学Ⅰ演習A	演習	1後	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	中西
			基礎看護学Ⅰ演習B	演習	2前	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	中西
		基礎看護学Ⅱ	基礎看護学Ⅱ特論	講義	1前	選択	ー	ー	ー	ー	2	30	相見
			基礎看護学Ⅱ演習A	演習	1後	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	相見
			基礎看護学Ⅱ演習B	演習	2前	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	相見
		基礎看護学Ⅲ	基礎看護学Ⅲ特論	講義	1前	選択	ー	ー	ー	ー	2	30	佐々木
			基礎看護学Ⅲ演習A	演習	1後	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	佐々木
			基礎看護学Ⅲ演習B	演習	2前	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	佐々木
	臨床看護学	成人看護学Ⅰ	成人看護学Ⅰ特論	講義	1前	選択	ー	ー	ー	ー	2	30	遠藤
			成人看護学Ⅰ演習A	演習	1後	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	遠藤
			成人看護学Ⅰ演習B	演習	2前	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	遠藤
		成人看護学Ⅱ	成人看護学Ⅱ特論	講義	1前	選択	ー	ー	ー	ー	2	30	宮松
			成人看護学Ⅱ演習A	演習	1後	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	宮松
			成人看護学Ⅱ演習B	演習	2前	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	宮松
		老年看護学	老年看護学特論	講義	1前	選択	ー	ー	ー	ー	2	30	荻田
			老年看護学演習A	演習	1後	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	荻田
			老年看護学演習B	演習	2前	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	荻田
		小児看護学	小児看護学特論	講義	1前	選択	ー	ー	ー	ー	2	30	桑田
			小児看護学演習A	演習	1後	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	桑田
			小児看護学演習B	演習	2前	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	桑田
		ｳｲﾒﾝｽﾞﾍﾙｽ看護学	ｳｲﾒﾝｽﾞﾍﾙｽ学特論	講義	1前	選択	ー	ー	ー	ー	2	30	立岡
			ｳｲﾒﾝｽﾞﾍﾙｽ看護学演習	演習	1後	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	立岡
			周産期看護学演習	演習	2前	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	喜多
		精神看護学	精神看護学特論	講義	1前	選択	ー	ー	ー	ー	2	30	河村
			精神看護学演習A	演習	1後	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	河村
			精神看護学演習B	演習	2前	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	河村
	公衆衛生看護学	地域看護学Ⅰ	地域看護学Ⅰ特論	講義	1前	選択	ー	ー	ー	ー	2	30	伊藤
			地域看護学Ⅰ演習A	演習	1後	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	輿水・伊藤
			地域看護学Ⅰ演習B	演習	2前	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	伊藤
		地域看護学Ⅱ	地域看護学Ⅱ特論	講義	1前	選択	ー	ー	ー	ー	2	30	（　　）
			地域看護学Ⅱ演習A	演習	1後	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	（　　）
			地域看護学Ⅱ演習B	演習	2前	選択	ー	ー	ー	ー	1	30	（　　）

令和２年度　授 業 科 目 等 及 び 担 当 教 員

	研究領域/部門		授 業 科 目	授業形態	研究コース		高度実践コース				単位数	時間数	授業担当教員
					配当年次	必修・選択	看護管理領域		特定行為領域				
							配当年次	必修・選択	配当年次	必修・選択			
高度実践コース	看護管理領域	看護管理実践	看護管理特論	講義	ー	ー	1前	必修	ー	ー	2	30	中西
			看護管理演習Ⅰ	演習	ー	ー	1後	必修	ー	ー	1	30	中西
			看護管理演習Ⅱ	演習	ー	ー	2前	必修	ー	ー	1	30	中西
			看護実践実習（看護管理実践）	実習	ー	ー	1～2	必修			6	270	中西
	特定行為領域	専門科目	呼吸管理学実習Ⅰ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	1	30	北川
			呼吸管理学実習Ⅱ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	4	120	北川
			呼吸管理学実習Ⅲ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	1	30	北川
			循環管理学実習Ⅰ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	3	90	北川
			循環管理学実習Ⅱ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	2	60	北川
			循環管理学実習Ⅲ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	2	60	北川
			循環管理学実習Ⅳ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	4	120	北川
			外科管理学実習Ⅰ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	2	60	北川
			外科管理学実習Ⅱ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	2	60	遠藤
			外科管理学実習Ⅲ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	1	30	遠藤
			外科管理学実習Ⅳ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	2	60	北川
			栄養管理学実習Ⅰ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	2	60	佐々木
			栄養管理学実習Ⅱ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	3	90	佐々木
			栄養管理学実習Ⅲ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	1	30	佐々木
			栄養管理学実習Ⅳ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	2	60	佐々木
			栄養管理学実習Ⅴ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	3	90	佐々木
			創傷管理学実習Ⅰ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	2	60	遠藤
			創傷管理学実習Ⅱ	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	1	30	遠藤
			感染管理学実習	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	3	90	北川
			精神疾患管理学実習	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	2	60	北川
			疼痛管理学実習	実習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	2	60	北川
			スキルズラボ演習Ⅰ	演習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	2	60	北川、遠藤、佐々木
			スキルズラボ演習Ⅱ	演習	ー	ー	ー	ー	1～2	選択	2	60	北川、遠藤、佐々木
			看護実践演習（特定行為実践）	演習	ー	ー	ー	ー	1～2	必修	6	180	北川、各指導教員
		特定行為実践	特定行為看護特論	講義	－	－	ー	ー	1～2	必修	2	30	遠藤、各指導教員
			特定行為看護演習Ⅰ	演習	－	－	ー	ー	1～2	必修	1	30	遠藤、各指導教員
			特定行為看護演習Ⅱ	演習	－	－	ー	ー	1～2	必修	1	30	遠藤、各指導教員
		周麻酔期看護実践	周麻酔期看護特論	講義	－	－	ー	ー	1～2	必修	2	30	北川
			周麻酔期看護演習Ⅰ	演習	－	－	ー	ー	1～2	必修	1	30	北川
			周麻酔期看護演習Ⅱ	演習	－	－	ー	ー	1～2	必修	1	30	北川
			周麻酔期看護実践Ⅰ	実習	－	－	ー	ー	1～2	必修	3	135	北川
			周麻酔期看護実践Ⅱ	実習	－	－	ー	ー	1～2	選択	1	45	北川
			周麻酔期看護実践Ⅲ	実習	－	－	ー	ー	1～2	選択	1	45	北川

コース	授業科目	授業形態	配当年次	必修・選択	単位数	時間数	授業担当教員
研究コース	看護学特別研究	特別研究	1年後・2年通年	必修	10	450	各指導教員
高度実践コース	看護実践課題研究（看護管理実践）	課題研究	1～2	必修	4	180	各指導教員
	〃　　（特定行為実践）	課題研究	1～2	必修	4	180	各指導教員

授　業　時　間　表

【 前期15週 】

時限 曜日	授業形態	1 8:50～10:20	2 10:30～12:00	3 13:00～14:30	4 14:40～16:10	5 16:20～17:50	6 18:00～19:30	7 19:40～21:10
月	講　義							
	演　習							
	特別研究 ／実　習							
火	講　義							
	演　習							
	特別研究 ／実　習							
水	講　義							
	演　習							
	特別研究 ／実　習							
木	講　義						看護倫理	看護倫理
	演　習							
	特別研究 ／実　習							
金	講　義							
	演　習							
	特別研究 ／実　習							
土	講　義							
	演　習							

備考	以下の科目については、指導教員から別途指示します。 ・看護学課題実習 ・看護学特別研究 ・看護実践課題研究 ・看護学研究方法論Ⅴ 《教育基本法の特例について》 社会人入学者を対象に、大学院設置基準第14条「教育方法の特例」を適用し、6、7限目については担当教員と社会人入学の履修予定者で、この時間割を基本としながら、調整の上で開講します。 希望する場合は、担当教員まで申し出てください。

授　業　時　間　表

【 後期15週 】

時限 曜日	授業形態	1 8:50~10:20	2 10:30~12:00	3 13:00~14:30	4 14:40~16:10	5 16:20~17:50	6 18:00~19:30	7 19:40~21:10
月	講　義							
	演　習							
	特別研究 ／実　習							
火	講　義							
	演　習							
	特別研究 ／実　習							
水	講　義							
	演　習							
	特別研究 ／実　習							
木	講　義							
	演　習							
	特別研究 ／実　習							
金	講　義							
	演　習							
	特別研究 ／実　習							
土	講　義							
	演　習							

令和２年度　大学院医学系研究科修士課程　学年暦

行　　事	日　　程
前期（　４月　１日（水）～　９月３０日（水））	
学年開始	４月　１日（水）
入学宣誓式・新入生履修指導（春季）	４月　３日（金）
前期授業期間	４月　６日（月）～　７月２８日（火）
補講期間	７月２９日（水）～　８月　７日（金）
夏季休業	８月　８日（土）～　９月３０日（水）
学位論文研究発表会（第１回）・中間発表会・デザイン発表会	８月３１日（月）～　９月　４日（金）
学位授与式（秋季）	１０月　１日（木）
後期（１０月　１日（木）～　３月３１日（水））	
入学宣誓式・新入生履修指導（秋季）	１０月　１日（木）
後期授業期間（前半）	１０月　２日（金）　～ １２月２２日（火）
冬季休業	１２月２３日（水）　～　　１月　３日（日）
後期授業期間（後半）	１月　４日（月）　～　　２月　９日（火）
学位論文研究発表会（第２回）・中間発表会・デザイン発表会	２月　１日（月）　～　　２月　５日（金）
春季休業	２月１０日（水）　～　　３月３１日（水）
学位授与式（春季）	３月　９日（火）
学年終了	３月３１日（水）

【備考】　１）定期健康診断の日程は、別途通知する。

２）その他、学年暦に変更があった場合は、その都度通知する。

共通科目
（全領域）

授業科目名	看護学研究方法論Ⅰ	担当教員	立岡　弓子 教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	1～2年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	修士論文課題作成の準備段階として、自らの看護研究を遂行するための初歩的知識とスキルを学習することで、看護実践から導き出されたリサーチクエスチョンに気づき、研究の意義を考えられるように学習する。看護学に資する研究であることの位置づけをディスカッションにより深めていく。 自らの研究課題に関係する文献を読み、作成した文献レビューをまとめることができるように演習的要素も取り入れる。
到達目標	看護研究に関する基本的知識を習得する。 看護学領域の研究論文の理解を深め、自らの研究課題について研究計画を立案するための過程を習得する 1．自らのリサーチクエスチョンを探索する 2．研究テーマに関するキーワードを見出し文献検索できる 3．文献を読み、体系的に記録ができる 4．文献記録の整理方法を学習し、文献検討結果が書ける 5．研究方法の項目が理解できる 6．看護研究における倫理の原則、倫理的配慮について理解できる
回数	授　業　内　容
	ガイダンス 看護研究とは リサーチクエスチョンとは 研究テーマと文献検索方法 看護研究の方法論 研究デザインと概念枠組み 研究計画書の書き方 看護研究と倫理

評価方法	1）プレゼンテーション　50% 2）ワークショップ　50%
教科書・ 参考書文献等	
授業形式	1）講義・演習 2）学生による課題発表
備　考	開講予定は履修生と相談して決定する。

授業科目名	看護学研究方法論Ⅱ	担当教員	河村　奈美子 教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	1～2年次 後期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	以下の内容について講義と演習を通して質的研究実施にむけた能力を養う。 1．看護研究における質的研究の目的 2．さまざまな質的研究アプローチ 3．研究目的と適切な方法の選択 4．研究デザインと信頼性、妥当性 5．データ収集と分析 6．データの記述
到達目標	看護研究における質的研究についてその適用と意義、方法について理解し、質的研究の実施に向けて必要とされる知識と研究スキルを養う。
回数	授　業　内　容
	1．看護研究における質的研究の目的 2．さまざまな質的研究アプローチ 3．研究目的と適切な方法の選択 4．研究デザインと信頼性、妥当性 5．データ収集と分析 6．データの記述

評価方法	講義の出席態度、課題への取り組み状況と内容、レポートにより総合的に評価します。
教科書・ 参考書文献等	・Morse JM & Field PA.1996.Nursing Research: The application of qualitative approaches (2ed.).Stanley Thornes;London. ・Morse JM.2016.Qualitative health research:Creating a new decipline.Rpitledge; New York.
授業形式	演習やディスカッションへの積極的参加を求めます。社会人の受講者も多いことが予測され、日程調整を行い、集中での開講の可能性も想定しています。
備　考	積極的に参加してください。

授業科目名	看護学研究方法論Ⅲ	担当教員	宮松　直美 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次 後期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	疫学の基本的な考え方と研究方法および必要な統計手法について学び、エビデンス構築のための看護学研究遂行に必要な知識・技術を身につける
到達目標	1.疫学の理論と方法、視点を理解する 2.各研究デザインの特徴を理解する 3.研究課題に適した統計学的手法を選定できる 4.結果の解釈の際に留意すべき点を理解する
回数	授　業　内　容
	第1回：オリエンテーション・疫学とは何か 第2回：疾病頻度の測定 第3回：スクリーニング検査の評価、疾患の自然経過 第4回：ランダム化比較試験 第5回：コホート研究 第6回：ケースコントロール研究 第7回：リスクの推定 第8回：予防効果の推定 第9回：コホート研究とケースコントロール研究の比較 第10回：因果推論 第11回：遺伝要因と環境要因の役割 第12回：保健医療サービスの評価に対する疫学の応用 第13回：スクリーニングプログラムの評価に対する疫学の応用 第14回：解析演習@MMC 第15回：解析演習@MMC

評価方法	プレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(50%)により総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	担当課題について、大学院生によるプレゼンテーションをもとに質疑および討論を行う。
備　考	オフィスアワー：平日 12：00-13：00（看護学科棟 509 もしくは 516） ※講座で対応 担当箇所についてはテキスト以外の図書や資料に基づいた十分な準備をしてください。

授業科目名	看護学研究方法論Ⅳ	担当教員	荻田　美穂子 准教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	1～2年次 後期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	論文の系統的レビューに必要とされる技術（収集方法、整理方法、分析・評価方法）の習得と、クリティカル・シンキング能力を磨くことを目的とする。
到達目標	文献レビューにおける EBN（Evidenced-Based Nursing）・EBP（Evidenced-Based Practice） の位置付けが理解できる。 システマティックレビューの概要とその方法が理解できる。 論文クリティークの意義とその方法が理解できる。 量的研究方法論および質的研究方法論で学んだ既習の知識を活用し、論文をクリティークの手法で読むことができる。 研究課題についてシステマティックレビューを活用し、最新の知見を整理する方法がわかる。
回数	授　業　内　容
	授業計画表に沿って進める。

評価方法	プレゼンテーション(50%)、討議への参加状況（50%）により評価する。 学生の主体的参加が重視される。
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義、演習、学生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。 各自割り当てられた本もしくは文献を講読し、内容の要約やクリティーク内容についてプレゼンテーションを行う。担当箇所は初回講義日にアナウンスする。
備　考	論文を適切に抽出し、評価できる能力は「臨床でエビデンスを使う」・「研究でエビデンスを作る」過程の両方で必須です。研究コースだけでなく、高度専門職コースの方にもオススメします。学生さんの主体的な参加をお願いします。良い論文に当たるコツや論文を読む面白さを皆さんと共有できればと考えています。

授業科目名	看護学研究方法論Ⅴ	担当教員	各指導教員	年次 前・ 後期	1年次 通年	時間数	60
授業形態	演習					単位数	2

授業目的	定期的な進捗状況の発表と討論により、研究課題及び検討方法を洗練する。
到達目標	1．自らの研究課題を目核にする 2．研究課題に適した研究方法を選択できる 3．研究課題と方法に適した分析方法を選択する 4．研究計画を適切にプレゼンテーションする
回数	授　業　内　容
	・複数の研究部門の大学院指導教員による進捗状況報告及び討論のためのプログレス・ミーティングを定期的に開催し、その成果を後期最終月に全研究部門の合同で実施される研究デザイン発表会で発表する。 ・自らのテーマに関連する学会参加や発表を積極的に行い、プログレス・ミーティングで報告する。
評価方法	プログレス・ミーティングへの出席(20%)とプレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(30%)により総合的に評価する。 また、プログレスミーティングで報告された学会参加及び発表は指導教員の判断により、本科目の単位の一部として評価される。
教科書・参考書文献等	特になし（指導教員の指示を受けてください）
授業形式	文献紹介、研究課題について討論、学会参加・発表の報告、研究デザイン発表
備　考	

授業科目名	看護理論	担当教員	伊藤　美樹子 教授 公衆衛生看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次 後期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	上級の看護実践の基盤となる看護および関連分野の諸理論を批判的に理解し、理論を用いて看護現象の説明や、看護実践に適用できる能力を高める。
到達目標	代表的な看護理論および看護実践に用いられる関連領域の諸理論について理解する。また、看護実践における自らの経験と照らして理論のの適用と妥当性を検討できる。

回数	授　業　内　容
	1 オリエンテーション 2 ヒューマン・ケアリング理論① 3 ヒューマン・ケアリング理論② 4 適応看護理論① 5 適応看護理論② 6 発達段階理論① 7 発達段階理論② 8 自己決定理論 9 行動変容理論 10 家族システム論 11 サクセスフル・エイジング・モデル 12 セルフケア理論① 13 セルフケア理論② 14 アンダーセン・モデル 15 コミュニティ・エンパワメント

評価方法	授業への参加度（20%）　レポート（40%）　プレゼンテーション(40%)
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義、視聴覚教材の視聴、院生のプレゼンテーション等をもとにした討論
備　考	

授業科目名	看護倫理	担当教員	中西　京子 准教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	1～2年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	保健医療における倫理に関する基本的概念や理論を学び、今日の高度科学医療の現場において、患者や家族が置かれている状況から生じている倫理上の問題について、看護者としてどう判断し、どう行為すべきか、検討する。さらに、看護者として必要な研究における倫理的配慮及び看護者の倫理的感性を育てる組織倫理についても学ぶ。
到達目標	1. 生命倫理及び看護倫理の理論及び基本的概念基盤について理解する。 2. ケアの倫理の視点から、看護者の責任及び行為について理解できる。 3. 臨床で直面する倫理的問題について、倫理的にとらえなおして判断することができる。 4. 看護研究を行う際の倫理的配慮が理解できる。 5. 組織風土が看護者の倫理に及ぼす影響を理解し、組織のあり方について考えることができる。
回数	授　業　内　容
	第1回　ガイダンス、医の倫理と生命倫理 第2回　生命倫理と人権 第3回　生命倫理の視点から考える脳死・臓器移植 第4回　看護の倫理 第5回　看護実践とケアリング 第6回　看護における倫理的課題の分析 第7回　倫理的分析の実際 第8回　倫理的分析の実際 第9回　倫理的分析の実際 第10回　倫理的分析の実際 第11回　倫理的分析の実際 第12回　倫理的分析の実際 第13回　倫理的分析の実際 第14回　組織における倫理 第15回　まとめ 外部講師：大西香代子

評価方法	最終レポート 80%、授業におけるディスカッション 20%
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義・ディスカッション
備　考	課題学習および討論等の授業への積極的な参加を求めます。 令和2年7月～8月（木）6限・7限の開講となります。

授業科目名	看護管理学	担当教員	中西　京子 准教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	1～2年次 後期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	今日の保健医療福祉における看護の役割を確認し、医療安全と質の向上を図り、効率的、効果的な看護サービスを提供していくための組織と看護管理の在り方を学ぶ。
到達目標	1. 看護管理に必要な基本的な諸理論、管理プロセス、実践システムについて理解する。 2. 日本及び諸外国の看護管理の実践に関する研究動向を文献から把握できる。 3. 看護管理の効果的な在り方や課題について探求できる。
回数	授　業　内　容
	第1回　ガイダンス　看護とマネジメント ・看護管理の概要・看護管理者の役割 第2回　専門職としての看護職 ・看護専門職の役割と機能 第3回　看護制度・政策（1） ・日本における保健医療福祉制度の動向 第4回　看護制度・政策（2） ・看護制度の変遷と政策 第5回　看護と組織（1）（外部講師：任和子） ・組織マネジメントの基本理論・組織構造・組織文化・組織診断 第6回　看護と組織（2）（外部講師：任和子） ・グループマネジメント 第7回　看護サービスの質管理（1）（外部講師：清水房枝） ・看護サービスの組織化・ケアの変革と業務改善 第8回　看護サービスの質管理（2）（外部講師：清水房枝） ・安全管理・危機管理 第9回　看護における人的活用論（1） 第10回　看護における人的活用論（2） 第11回　看護情報論　（外部講師：清水房枝） ・医療、看護情報の概要・看護実践に活かす情報管理 第12回　医療経済論　（外部講師：清水房枝） ・医療経済・看護サービスにおける経済性 第13回　看護管理者の倫理的意思決定（外部講師：西村路子） ・管理者の倫理的ジレンマ・看護管理における倫理的意思決定プロセス 第14回　看護管理者の倫理的意思決定（外部講師：西村路子） 第15回　看護管理学の課題と展望、まとめ

評価方法	講義への参加度（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義、大学院生のプレゼンテーションを基にした討論
備　考	事前学習、課題に積極的に取り組み、臨床や地域の場における様々な課題について、看護管理学の視点から積極的に討論し、自己の研究課題が明確になるような学びを期待します。 履修を希望する院生は、必ず受講登録前に研究室までお越しください。 令和2年11月～12月の開講となります。

授業科目名	コンサルテーション論	担当教員	河村　奈美子 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次 後期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	1．コンサルテーションの理論的若組を理解する 2．臨床場面におけるコンサルテーションの実際について捉える 3．組織の危機を理解し、解決について考える 4．事例によりコンサルテーションのモデルやタイプ、グループの力動関係を考え、マネジメント、コントロール、調整を議論する
到達目標	対人サービスに従事する人が抱える大きなストレスとそこに抱えられた無意識の問題や要因について、個人の病理や脆弱性とのみ捉えるのではなく、組織の持つ問題として考えていく力を養い、解決するためのコンサルテーションについて修得する。
回数	授　業　内　容
	テキストを基に、コンサルテーションのモデルやタイプ、役割について学び、個人のコンサルテーション、組織のコンサルテーションについて考える。 ロールプレイや事例を通して、コンサルテーションの実際を学ぶ。

評価方法	出席率(30%)および授業の際の積極的参加度(20%)と、レポート(50%)により総合的に評価する。
教科書・ 参考書文献 等	
授業形式	授業内容と方法は履修者の人数や出自によって適宜調整するが、基本的には講義と演習・討論により実施する。 受講生の希望に従って例年は夏季集中講義で開講してきたが、単位数の変更にともない時間数が増加したため、数日間連続あるいは数回に分けての集中開講になる予定である。開講日時については、社会人学生が多いため相談に応じることとする。
備　考	事前学習や課題学習および授業中の討論への参加などにおける真摯で積極的な学びの態度を切に希望する。授業相談については、電話やメールで事前連絡の上、時間調整することを前提に適宜対応する。

授業科目名	看護教育学	担当教員	桑田　弘美 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次 後期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	看護学を学ぶ学生の学習活動をどのように計画し、導き、評価するかについて包括的に学ぶ。
到達目標	関連文献の講読と討議を通して、法的・倫理的問題を含む看護学教育を取り巻く複雑な環境の中で行われる学習計画・支援・評価の在り方について自己の考えを明確にする。
回数	授　業　内　容
	看護基礎教育に関する論文のクリティーク①②③④ 卒後・継続教育に関する論文のクリティーク①②③④ 授業展開や実習展開を支える Teaching&Learning に関する論文のクリティーク①②③ 教育評価に関する論文のクリティーク①②③ まとめ

評価方法	授業への取り組み状況（40%）、プレゼンテーション(60%)により評価する。 学生の主体的参加が重視される。
教科書・ 参考書文献 等	
授業形式	学生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。 各自関連文献を講読し、その内容についてプレゼンテーションを行うこと。
備　考	

授業科目名	看護政策論	担当教員	中西　京子 准教授 基礎看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次 後期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	我が国の看護制度や保健・医療・看護政策の概要を理解する。また、看護政策決定過程と関連諸団体との連携・協働の在り方や看護職の関与の在り方等を理解し、看護の現場が抱える課題解決に向けた方策を探求することで、政策形成過程の実践における基礎的能力を養う。
到達目標	1. 看護政策の意義や制度について述べることができる。 2. 医療や看護政策の決定過程、政策と看護実践の関連について述べることができる。 3. 現在の社会や医療情勢から看護政策の課題を明らかにする。 4. 看護政策について看護職の関与の在り方を考察できる。
回数	授　業　内　容
	第1回　看護政策の意義・制度 第2回　看護政策の変遷 第3回　看護・保健福祉関連の法・制度　1 第4回　看護・保健福祉関連の法・制度　2 第5回　看護政策と診療報酬 第6回　看護政策の課題　1 第7回　看護政策の課題　2 第8回　看護政策の決定過程 第9回　政策形成過程と看護職の役割 第10回　看護職の政策課題に関するプレゼンテーション・討議 第11回　看護職の政策課題に関するプレゼンテーション・討議 第12回　看護職の政策課題に関するプレゼンテーション・討議 第13回　看護職の政策課題に関するプレゼンテーション・討議 第14回　看護職の政策課題に関するプレゼンテーション・討議 第15回　まとめ～看護行政の展望

評価方法	レポート（40%）、ディスカッション（30%）、プレゼンテーション（30%）
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義、ゼミナール
備　考	履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に電話やメールでの事前連絡の上、研究室までお越しください。

授業科目名	臨床解剖生理学	担当教員	相見　良成 教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	1～2年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	人体の肉眼レベルから顕微鏡レベルに至る形態と、それぞれのレベルでの生理機能を、臨床的な視点から、最新の知見を踏まえて深く掘り下げて学ぶ。
到達目標	人体の構造と機能についての理解を深め、臨床の場でより高いレベルの看護を行うために、このような知識を応用する能力を身につける。
回数	授　業　内　容
	1．筋骨格系と神経系にわたる体性運動系の機能解剖生理学 2．組織学から病理学にかけての細胞生物学 3．内臓性各器官の構造と機能の連関についての基礎と臨床

評価方法	受講態度、レポート、試問などにより総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義
備　考	看護学のみならず、医療を学ぶ上で、最も基礎となり、最も面白い学習領域が「解剖生理学」です。これまでに習得した臨床事項を含む様々な知識･経験を再構築するためのツールとして受講していただけると幸いです。 まずはメールで　aimi@belle.shiga-med.ac.jp　まで。

授業科目名	臨床薬理学	担当教員	佐々木　雅也 教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	1年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	内科系、外科系で用いる薬剤の効能、適応となる疾患、合併症についてを学習し、看護の実践に活用できる知識を習得する。
到達目標	看護の実践において必要と考えられる薬理学の知識につき学習し、高度なケアの実践に活かしうる能力を獲得することを目的とする。
回数	授　業　内　容
	内科系、外科系の医療において使用する薬剤について、効能、適応となる疾患、合併症などの知識を習得する。

評価方法	出席状況・受講態度とレポートにより総合的に評価する。レポートについては、院生のプレゼンテーションも実施する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義と演習にておこなう。
備　考	

授業科目名	臨床診断学	担当教員	遠藤　善裕 教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	1年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	1．創傷ケア 創部ドレーンの抜去等、縫合等の創傷処置および抜糸処置（ストーマ周囲の抜糸、一時創の抜糸、ストーマ肉芽の焼灼など)、褥瘡の壊死組織のデブリードマン等 2．その他 超音波検査（褥瘡の評価、失禁における残尿測定）経膣的膀胱頚部挙上装具（イントロール）の挿入、レントゲン撮影やCT・MRI撮影の必要性の判断等 上記に関わる、臨床診断、臨床的推論、フィジカルイクザミネーションを学ぶ。
到達目標	ストーマケア、創傷ケア、失禁ケアの各分野では、「看護ケア」に対し、最も早く診療報酬上評価された領域である。この領域の専門・認定看護師数が最も多く活躍していることもあり、看護職員による業務範囲の拡大と医療行為の一部実施に対するニーズが高い。ケアとキュアの融合による高度な知識・技術を駆使することによる水準の高い看護ケアを提供し、かつ特定の医行為を実施できる高度な専門知識・技術を有する看護師の育成を目ざし、必要とされる臨床診断学を学び、医師国家試験必須問題で問われる内容を理解する。
回数	授　業　内　容
	系統的臨床診断学と特にストマ・排泄ケアに必要な臨床診断、臨床的推論、フィジカルイクザミネーションを講義・演習する。

評価方法	出席状況・受講態度および授業の際の積極的参加度(50%)と、試験(50%)により総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	授業内容と方法は履修者の人数によって適宜調整するが、基本的には講義と演習・討論により実施する。
備　考	事前学習や課題学習および授業中の討論への参加などにおける真摯で積極的な学びの態度を切に希望する。授業相談については、電話やメールで事前連絡の上、時間調整することを前提に随時対応する。

全領域
（特定行為）

授業科目名	疾病予防学	担当教員	喜多　伸幸 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	高齢化に伴い疾病予防の重要性が再認識されている現状を鑑み、様々な疾病の病態を理解し、最新の知見をもとに今後の疾病予防の展望を明らかにする。
到達目標	様々な疾病に関する病態を理解し、その診断、介入、最終的に最新の知見に則った疾病予防の概要を学ぶ。
回数	授　業　内　容
	生活習慣病の発症状況、その病態 妊娠中の胎児発育や出生後の栄養状態が将来的に関与する因子の解析 胎児期からの介入方法の検討

評価方法	出席：20%、討論への参加態度：30%、プレゼンテーションならびにレポート課題：50%により総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義：50%、討論：50%
備　考	

授業科目名	フィジカルアセスメント	担当教員	遠藤　善裕 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	小児から高齢者、在宅から救急医療までの幅広い領域において、健康問題を有する対象の身体状況を把握し、臨床看護判断を行うために必要な身体診断・診断学の基礎知識や手技について学ぶ。適切な報告、アセスメントに必要な基礎能力を養う。
到達目標	・身体診察基本手技の理論と方法論を理解できる。 ・各部位の身体診察手技を行うことができる。 ・身体診察手技から得られた所見についてアセスメントができ、説明できる。 ・事例検討を用いて、患者の病態や必要な対処を判断することができる。 ・小児・高齢者のフィジカルアセスメントの特性が理解できる。 ・救急医療や在宅医療で必要なフィジカルアセスメントが理解できる。
回数	授　業　内　容
	【学ぶべき事項】 1．身体診断・診断学（演習含む）を学ぶ。 1）身体診察基本手技の理論と演習・実習、2）部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習　全身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱/泌尿・生殖器/乳房・リンパ節/神経系、3）身体診察の年齢による変化　小児/高齢者、4）状況に応じた身体診察　救急医療/在宅医療
評価方法	e-learning のコマ毎の確認テストは、満点となるまで行う。筆記試験を行う。その他、出席日数、レポート、授業への取り組み、態度などにより総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	グレイ解剖学 原著第 3 版 Richard Drake et al. (著)、 塩田 浩平ら(翻訳)　エルゼビアジャパン 2016 Bates'Guide to Physical Examination and History Taking (ベイツ診察法)第2版　Lynn S.Bickley [監修]　井部俊子ら　メディカル・サイエンス・インターナショナル　2015 診察と手技がみえる vol.1 第2版　[編集]古谷伸之　MEDIC MEDIA　2015 プロシジャーズ・コンサルト日本語版（臨床手技データ
授業形式	高度実践コース（特定行為領域）で専攻する方は、e-learning で学習した後、面接授業にて学びをさらに深める。症例検討など演習も含む。面接授業では e-learning はコマ毎に確認テスト、および筆記試験がある。
備　考	高度実践コース（特定行為領域）を専攻する方は必修とする。

授業科目名	疾病・臨床病態概論	担当教員	遠藤　善裕 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	主要疾患（5疾病）及び、臨床の場で多い疾患、年齢や状況に応じた特性も踏まえ、疾病や病態機序、臨床診断、治療について学ぶ。また多様な臨床の場面を想定した事例検討や演習を行い、特定行為や看護実践に応用する能力を養う。
到達目標	1）5疾病ほか、小児、高齢者の主要疾患の病態、臨床診断、治療について学ぶ。 2）救急医療や在宅医療において特定行為を行う疾病についての病態、臨床診断、治療について学ぶ。 3）急変時対応に関するEBM、急変の場面で必要な観察や判断力を身に付け実践で応用する能力を身に付ける。
回数	授　業　内　容
	1．主要疾患（5疾病）の臨床診断・治療学を学ぶ。 1）5疾病の病態と臨床診断・治療の概論　悪性腫瘍/脳血管障害/急性心筋梗塞/糖尿病/精神疾患 2）その他の主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論　循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/運動器系/感覚器系/感染症/その他 2．年齢や状況に応じた臨床診断・治療（小児、高齢者、救急医学等）を学ぶ。 1）小児の臨床診断・治療の特性と演習　2）高齢者の臨床診断・治療の特性と演習　3）救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 4）在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習

評価方法	e-learning のコマ毎の確認テストは、満点となるまで行う。筆記試験を行う。その他、出席日数、レポート、授業への取り組み、態度などにより総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	看護師特定行為研修共通科目テキストブック、疾病・臨床病態概論、高村昭輝（編）、メディカルレビュー社、(2018)
授業形式	高度実践コース（特定行為領域）で専攻する方は、e-learning で学習した後、面接授業にて学びをさらに深める。症例検討など演習も含む。面接授業では e-learning はコマ毎に確認テスト、および筆記試験がある。
備　考	高度実践コース（特定行為領域）を専攻する方は必修とする。

授業科目名	臨床推論Ⅰ	担当教員	遠藤　善裕 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	診療のプロセスで必要となる臨床推論の理論、医療面接、臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学の基礎を学び、医学の診方や思考プロセスを看護実践に取り入れ、応用する力を養う。
到達目標	臨床診断学、臨床検査学、症候学などを学び、病態の変化などを迅速に捉えてアセスメントする能力を身に付ける。また、臨床推論や医療面接の基本的な概念を理解し、医学の臨床診断プロセスの思考過程を学ぶ。これらの学びから特定行為を行う看護職に必要なスキルを見出すことができる。
回数	授　業　内　容
	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1）診療のプロセス 2）臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3）医療面接の理論と演習・実習 4）各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査 5）画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT・MRI/その他の画像検査 6）臨床疫学の理論と演習

評価方法	e-learning のコマ毎の確認テストは、満点となるまで行う。筆記試験を行う。その他、出席日数、レポート、授業への取り組み、態度などにより総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	よくわかる医療面接と模擬患者　　鈴木 富雄　名古屋大学出版会 誰も教えてくれなかった診断学―患者の言葉から診断仮説をどう作るか　野口 善令、福原 俊一　医学書院（2008） The 臨床推論　大西弘高　医学書院（2012） 看護師特定行為研修　共通科目テキストブック　臨床推論　メディカルレビュー社　2017 Bates'Pocket Guide to Physical Examination and History Taking (ベイツ診察法 ポケットガイド)第3版　Lynn S.Bickley
授業形式	高度実践コース（特定行為領域）で専攻する方は、e-learning で学習した後、面接授業にて学びをさらに深める。症例検討など演習も含む。面接授業では e-learning はコマ毎に確認テスト、および筆記試験がある。
備　考	高度実践コース（特定行為領域）を専攻する方は必修とする。

授業科目名	臨床推論Ⅱ	担当教員	北川　裕利 教授 麻酔科学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	診療のプロセスで必要となる臨床推論の理論、医療面接、臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学の基礎を学び、医学の診方や思考プロセスを看護実践に取り入れ、応用する力を養う。
到達目標	臨床診断学、臨床検査学、症候学などを学び、病態の変化などを迅速に捉えてアセスメントする能力を身に付ける。また、臨床推論や医療面接の基本的な概念を理解し、医学の臨床診断プロセスの思考過程を学ぶ。これらの学びから特定行為を行う看護職に必要なスキルを見出すことができる。
回数	授　業　内　容
	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1）診療のプロセス 2）臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3）医療面接の理論と演習・実習 4）各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査 5）画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT・MRI/その他の画像検査 6）臨床疫学の理論と演習

評価方法	e-learning のコマ毎の確認テストは、満点となるまで行う。筆記試験を行う。その他、出席日数、レポート、授業への取り組み、態度などにより総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	よくわかる医療面接と模擬患者　　鈴木 富雄　名古屋大学出版会 誰も教えてくれなかった診断学―患者の言葉から診断仮説をどう作るか　野口 善令、福原 俊一　医学書院（2008） The 臨床推論　大西弘高　医学書院（2012） 看護師特定行為研修　共通科目テキストブック　臨床推論　メディカルレビュー社　2017 Bates'Pocket Guide to Physical Examination and History Taking (ベイツ診察法 ポケットガイド)第3版　Lynn S.Bickley
授業形式	高度実践コース（特定行為領域）で専攻する方は、e-learning で学習した後、面接授業にて学びをさらに深める。症例検討など演習も含む。面接授業では e-learning はコマ毎に確認テスト、および筆記試験がある。
備　考	高度実践コース（特定行為領域）を専攻する方は必修とする。

授業科目名	特定行為実践論	担当教員	宮松　直美 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	多様な場面において特定行為実践に必要となる多職種協働実践、関連法規を踏まえ、特定行為の手順書作成や改良する方法を習得する。さらに特定看護師や専門看護師の活動を参考に、臨床に則した意思決定支援や調整、特定行為の実践過程の構造を学ぶ。
到達目標	看護職の役割・業務は拡大している。その医療現場において必要となる、チーム医療、コンサルテーション、特定行為実践に関する法規、手順書について理解を深める。また、特定行為を実践する看護職の役割について考える。具体的には、特定行為の手順書について学び、活用するプロセスについて学ぶ。さらに特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ。また、これらを学びから特定行為実践の展開を想像して概念化できる。
回数	授　業　内　容
	1．多職種協働実践（Inter Professional Work（IPW））（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ 1）チーム医療の理論と演習・実習 2）チーム医療の事例検討 3）コンサルテーションの方法 4）多職種協働の課題 ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む 2．特定行為実践のための関連法規を学ぶ 1）特定行為関連法規 2）インフォームドコンセント理論 3）インフォームドコンセント演習 3．根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ 1）手順書の位置づけ 2）手順書の作成演習 3）手順書の評価と改良 4．特定行為の実践におけるアセスメント仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ 1）特定行為の実践過程の構造 2）アセスメント、仮説検証、意思決定の理論 3）アセスメント、仮説検証、意思決定の演習

評価方法	e-learning のコマ毎の確認テストは、満点となるまで行う。筆記試験を行う。その他、出席日数、レポート、授業への取り組み、態度などにより総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	高度実践コース（特定行為領域）で専攻する方は、e-learning で学習した後、面接授業にて学びをさらに深める。症例検討など演習も含む。面接授業では e-learning はコマ毎に確認テスト、および筆記試験がある。
備　考	高度実践コース（特定行為領域）を専攻する方は必修とする。

授業科目名	特定行為実践演習	担当教員	宮松　直美 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	60
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	根拠に基づいて手順書を作成し、評価し、改良するプロセスについて学ぶ。また、特定行為に必要なインフォームドコンセントや自身のフィールドで、特定行為を行う意義や活動計画を示し、グループディスカッションを行う。
到達目標	手順書の構成要素を理解し、安全と裁量を勘案して自己のフィールドに則した活用と改良ができる。 看護職が特定行為を行うことで患者やチーム医療、組織に対するメリットを考察し、その意味・意義・役割について説明できる。 特定行為実践を振り返り、評価する方法を探索する。
回数	授　業　内　容
	3．根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ 1）手順書の位置づけ　2）手順書の作成演習　3）手順書の評価と改良 4．特定行為の実践におけるアセスメント仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ。 1）特定行為の実践過程の構造　2）アセスメント、仮説検証、意思決定の理論　3）アセスメント、仮説検証、意思決定の演習

評価方法	e-learning のコマ毎の確認テストは、満点となるまで行う。授業や課題への取り組み、ディスカッションへの積極性やレポート、出席日数、態度などにより総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	高度実践コース（特定行為領域）で専攻する方は、e-learning で学習した後、面接授業にて学びをさらに深める。プレゼン型ディスカッションなどの演習も含む。面接授業では e-learning はコマ毎に確認テスト、および筆記試験がある。
備　考	高度実践コース（特定行為領域）を専攻する方は必修とする。

授業科目名	診療看護実践論	担当教員	宮松　直美 （臨床看護系・ 在宅のｵﾑﾆﾊﾞｽ）	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	諸外国での診療看護師育成および活動の変遷を学び、本邦における診療看護師が担いうる役割と業務、関連法規について学ぶ。また、各専門領域の診療看護師に求められる能力や役割、診療看護師の活動の評価方法について、討論を通して学ぶ。
到達目標	各専門領域における診療看護師の役割と担いうる業務、診療看護師の活動の評価方法について理解する。

回数	授　業　内　容
	1 オリエンテーション 2 小児看護学領域における診療看護師の役割① 3 小児看護学領域における診療看護師の役割② 4 成人看護学領域における診療看護師の役割① 5 成人看護学領域における診療看護師の役割② 6 老年看護学領域における診療看護師の役割① 7 老年看護学領域における診療看護師の役割② 8 精神看護学領域における診療看護師の役割① 9 精神看護学領域における診療看護師の役割② 10 母性看護学領域における診療看護師の役割① 11 母性看護学領域における診療看護師の役割② 12 在宅看護学領域における診療看護師の役割① 13 在宅看護学領域における診療看護師の役割② 14 診療看護師による諸活動の評価① 15 診療看護師による諸活動の評価②

評価方法	
教科書・参考書文献等	
授業形式	
備　考	

研究コース

授業科目名	基礎看護学Ⅰ特論	担当教員	中西　京子 准教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	1年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	基礎看護学領域のテーマ（実践・教育・管理）の基盤となる理論と課題について概観し、自己の研究テーマの明確化と研究デザインを考究する。
到達目標	1．看護実践や看護教育学に関連する理論とその発展過程について理解する。 2．看護実践や看護教育の現状とその課題について理解する。 3．看護管理学に関連する理論とその発展過程について理解する 4．看護管理学の現状とその課題について理解する。 5．看護管理の基礎看護学に関連した研究テーマについて明らかにする。
回数	授　業　内　容
	1回目ガイダンス　看護実践のエビデンス 2回目看護実践の検証方法 3回目看護実践に関連する研究論文のクリティーク 4回目看護実践に関連する研究論文のクリティークとプレゼンテーション① 5回目看護実践に関連する研究論文のクリティークとプレゼンテーション② 6回目看護教育学と看護教育　看護教育の歴史と制度 7回目看護教育に関連する理論と専門職看護の育成 8回目看護教育に関連する論文のクリティーク 9回目看護教育に関連する論文のクリティークとプレゼンテーション① 10回目看護管理概説 11回目看護管理に関連する論文のクリティーク 12回目看護管理に関連する論文のクリティークとプレゼンテーション 13回目自己の研究課題に関連する論文のクリティークとプレゼンテーション① 14回目自己の研究課題に関連する論文のクリティークとプレゼンテーション② 15回目まとめ

評価方法	レゼンテーション（４０%）　レポート（３０%）　参加度（２０%）
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義、視聴覚教材の視聴、院生のプレゼンテーション等をもとにした討論（ゼミナール）
備　考	みなさんが今関心のあるテーマを中心にすすめていきたいと思います。問題意識をもってのぞんでください。

授業科目名	基礎看護学Ⅰ演習A	担当教員	中西　京子 准教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	1年次 後期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	基礎看護学領域に関連する研究論文と研究手法について教授する。各自関心のある研究論文をクリティークし、プレゼンテーション・討論を通して自己の研究計画を検討し、研究計画書の作成をめざす。
到達目標	1.各自の研究課題に関連した国内外の研究論文を批判的に吟味できる。 2.各自の研究課題に関連した研究手法について説明できる。 3.各自の研究課題に関連した研究手法の倫理的問題について考察できる。 4.各自の研究課題の研究デザインが説明できる。
回数	授　業　内　容
	第1回ガイダンス　関心のあるテーマについて討論 第2回各自の研究課題に関連した国内文献のクリティーク①質的研究 第3回各自の研究課題に関連した国内文献のクリティーク②量的研究 第4回各自の研究課題に関連した海外文献のクリティーク①質的研究 第5回各自の研究課題に関連した海外文献のクリティーク②量的研究 第6回各自の研究課題に関連したキーワードについて文献を用いて討論① 第7回各自の研究課題に関連したキーワードについて文献を用いて討論② 第8回各自の研究課題に関連したキーワードについて文献を用いて討論③ 第9回各自の研究課題に関連した研究手法① 第10回各自の研究課題に関連した研究手法② 第11回各自の研究課題に関連した倫理的問題① 第12回各自の研究課題に関連した倫理的問題② 第13回各自の研究課題の研究デザインの検討① 第14回各自の研究課題の研究デザインの検討② 第15回まとめ

評価方法	ゼミナールへの参加度（20%）　レポート（40%）　プレゼンテーション(40%)
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義、視聴覚教材の視聴、院生のプレゼンテーション等をもとにした討論（ゼミナール）
備　考	研究デザインを明確にしていきます。積極的な参加を求めます。

授業科目名	基礎看護学Ⅰ演習B	担当教員	中西　京子 准教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	2年次 前期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	基礎看護学領域に関連した自己の課題の情報収集，過去の知見の検討，データ収集，データ分析，結果の解釈・考察等の研究の一連のプロセスを演習を通じて学ぶ。また論文作成や研究のプレゼンテーションなどの手法を学ぶ。
到達目標	1．各自の研究テーマの意義を明確にできる。 2．各自の研究デザインを多面的に検討できる。 3．各自の研究に関連したデータの収集方法を検討できる。 4．各自の研究に関連したデータの整理・分析を行うことができる。 5．各自の研究に関連した論文のまとめ方が検討できる。
回数	授　業　内　容
	第1回 関連研究に関する資料・文献を収集し，問題点を掘り下げる。 第2回 研究デザインを多面的に検討する。 第3回 先行研究のクリティーク　データの収集・分析① 第4回 先行研究のクリティーク　データの収集・分析② 第5回 先行研究のクリティーク　データの収集・分析③ 第6回 各自の研究に関連する分析方法の検討① 第7回 各自の研究に関連する分析方法の検討② 第8回 各自の研究に関連する分析方法の検討③ 第9回 各自の研究に関連する分析方法の検討④ 第10回各自の研究に関連する分析方法の検討⑤ 第11回　考察の視点・論文のまとめ方① 第12回　考察の視点・論文のまとめ方② 第13回　考察の視点・論文のまとめ方③ 第14回　考察の視点・論文のまとめ方④ 第15回　まとめ

評価方法	レポート（40%）、プレゼンテーション（40%）、討議への参加度（20%）
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義、プレゼンテーション、討議
備　考	事前学習や課題学習および討論等の授業への積極的な参加を求めます。 授業日程は参加学生の希望を考慮して調整します。 履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に電話やメールでの事前連絡の上、研究室までお越しください。

授業科目名	基礎看護学Ⅱ特論	担当教員	相見　良成 教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	1年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	1

授業目的	はじめに細胞生物学を学び、さらに四大組織について順次講義を行う。
到達目標	人体の構造について、主に顕微鏡レベルの観察を行って理解を深める学問領域を組織学という。本特論では組織学のうちの総論的な部分について学ぶ。
回数	授　業　内　容
	1．細胞生物学 2．上皮組織 3．支持組織 4．神経組織

評価方法	受講態度、レポート、試問などにより総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	基礎看護学Ⅱ特論
授業形式	講義
備　考	

授業科目名	基礎看護学Ⅱ演習A	担当教員	相見　良成 教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	1年次 後期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	様々な臓器の組織標本を用い、微細構造を観察する。組織標本の作成を経験することにより、組織観察の本質と限界を知る。
到達目標	本演習では、実習を通じて顕微鏡レベルでの人体の構造について学ぶ。
回数	授　業　内　容
	1．ヒトおよび実験動物の組織標本の観察 2．一般染色と組織化学染色の顕微鏡標本の作製を行う。

評価方法	受講態度、レポート、試問などにより総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	演習
備　考	

授業科目名	基礎看護学Ⅱ演習Ｂ	担当教員	相見　良成 教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	2年次 前期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	模型、骨標本および系統解剖体の観察を行う。
到達目標	本演習では、人体の構造について肉眼レベルでの観察を行い、主に運動器についての機能解剖学的な理解を深める。
回数	授　業　内　容
	1．ヒト分離骨格標本、交連骨格標本の観察 2．解剖見学実習における解剖体の観察

評価方法	受講態度、レポート、試問などにより総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	演習
備　考	

授業科目名	基礎看護学Ⅲ特論	担当教員	佐々木　雅也 教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	1年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2
授業目的	栄養学を学び、臨床研究を実施するのに必要な知識とスキルを習得する。						
到達目標	臨床栄養に関する研究を実践するために必要な栄養アセスメント、栄養管理法、病態別の栄養療法について理解を深める。						
回数	授　業　内　容						
	以下の項目について、講義と院生によるプレゼンテーションをおこなう 1　栄養アセスメント手法 2　経腸栄養法（胃瘻管理を含む） 3　静脈栄養法 4　病態別栄養療法						
評価方法	受講態度と課題レポートで評価する。						
教科書・参考書文献等	基礎看護学Ⅲ特論						
授業形式	講義						
備　考							

授業科目名	基礎看護学Ⅲ演習Ａ	担当教員	佐々木　雅也 教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	1年次 後期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	栄養評価法に関する知識とスキルを習得する。
到達目標	演習を通じて、栄養代謝状態を評価する手法について学習する。
回数	授　業　内　容
	インピーダンス法による高精度体組成分析や、間接熱量測定による栄養代謝病態の評価について学習する。

評価方法	受講態度と課題レポートで評価します。
教科書・参考書文献等	
授業形式	演習
備　考	

授業科目名	基礎看護学Ⅲ演習Ｂ	担当教員	佐々木　雅也 教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	2年次 前期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	経腸栄養法や静脈栄養法に関する知識とスキルを習得する。
到達目標	演習を通じて、経腸栄養法や静脈栄養法について学習する。
回数	授　業　内　容
	1. 胃瘻管理や経鼻経管栄養法について学習する。 2. 中心静脈栄養法や末梢静脈栄養法について学習する。

評価方法	受講態度と課題レポートで評価します。
教科書・参考書文献等	
授業形式	演習
備　考	

授業科目名	成人看護学Ⅰ特論	担当教員	遠藤　善裕 教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	1年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	看護学を研究・実践する上で必要となる腫瘍学、腫瘍病理学、腫瘍免疫学、腫瘍診断学、腫瘍治療学等についての理解を深める。
到達目標	がん・腫瘍に関する発生・進展機構、生体の防御反応に関連した最新の知見を学び、診断、治療、予防に関する研究の動向を探る。
回数	授　業　内　容
	がん・腫瘍に関する基礎知識と最新の話題を提供する。 総論は、講義。 各論は、院生によるプレゼンテーションを主体とする。

評価方法	出席(20%)とプレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(30%)により総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義では出来る限り資料配付を心掛けている。 視聴覚機器：スライド、ビデオ、コンピューター液晶プロジェクターの活用
備　考	大学院生の主体的な参加を望む。 オフィスアワー：随時可能、ただし、不在時には、メール等で連絡してください。 遠藤善裕 yendo@belle.shiga-med.ac.jp 看護学科棟6階605室 電話：077-548-2440

授業科目名	成人看護学Ⅰ演習A	担当教員	遠藤　善裕 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1年次 後期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	成人看護における課題のうち、がん看護、周術期看護、緩和ケア、クリティカルケアなどを中心に、その診断と治療、予防に関連した最新の知見を学び、研究の動向を探る。
到達目標	成人看護における課題のうち、がん看護、周術期看護、緩和ケア、クリティカルケアなどを中心に学習し、それらを題材とし、自らの研究に適した研究テーマおよび方法論等を探る。
回数	授　業　内　容
	成人看護における課題のうち、がん看護、周術期看護、緩和ケア、クリティカルケアなどを中心に、それらを題材とした研究テーマおよび方法論等につき検討する。

評価方法	出席(20%)とプレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(30%)により総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	演習
備　考	オフィスアワー：随時可能、ただし、不在時には、メール等で連絡してください。 遠藤善裕 yendo@belle.shiga-med.ac.jp 看護学科棟 6 階 605 室 電話：077-548-2440

授業科目名	成人看護学Ⅰ演習B	担当教員	遠藤　善裕 教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	2年次 前期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	成人看護における課題のうち、がん看護、周術期看護、緩和ケア、クリティカルケアなどを中心に、その診断と治療、予防に関連した最新の知見を学び、研究の動向を探る。
到達目標	成人看護における課題のうち、がん看護、周術期看護、緩和ケア、クリティカルケアなどを中心に学習し、それらを題材とし、自らの研究に適した研究テーマおよび方法論等を探る。
回数	授　業　内　容
	成人看護における課題のうち、がん看護、周術期看護、緩和ケア、クリティカルケアなどを中心に、それらを題材とした研究テーマおよび方法論等につき検討する。

評価方法	出席(20%)とプレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(30%)により総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	演習
備　考	オフィスアワー：随時可能、ただし、不在時には、メール等で連絡してください。 遠藤善裕 yendo@belle.shiga-med.ac.jp 看護学科棟6階605室 電話：077-548-2440

授業科目名	成人看護学Ⅱ特論	担当教員	宮松　直美 教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	1年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	がんや循環器疾患などの非感染性疾患（NCD）の各段階での看護に関する国内外の知見から、各専門領域での看護のあり方と研究課題を見出す。
到達目標	1.各領域での研究の動向を理解する 2.それぞれの疾病の予防・管理上、修飾し得る要因とその方法を理解する 3.それぞれの疾病の予防・管理上、看護師の関与し得る課題とその方法を明らかにする

回数	授　業　内　容
	1　オリエンテーション 2　循環器看護① 3　循環器看護② 4　循環器看護③ 5　糖尿病看護① 6　糖尿病看護② 7　がん看護① 8　がん看護② 9　周手術看護① 10　周手術看護② 11　労働関連疾患の予防と管理 12　飲酒・喫煙関連疾患の予防と管理 13　ストレス関連疾患の予防と管理 14　認知機能障害の予防と管理 15　まとめ

評価方法	プレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(50%)により総合的に評価する。 学生の主体的参加が重視される。
教科書・参考書文献等	
授業形式	外書講読形式。 受講生は各テーマについての文献レビューを行い、プレゼンテーションすること。
備　考	履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に研究室までいらしてください。

授業科目名	成人看護学Ⅱ演習A	担当教員	宮松　直美 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1年次 後期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	循環器疾患、がんなどの非感染性疾患の発症予防、再発予防および社会復帰の促進に関する研究については、疾病や健康水準、目的とする評価指標により調査・研究手法が異なる。これらを理解するための研究方法、分析方法について学び、国内外の先行研究の批判的吟味を通して自己の研究課題の洗練および研究計画立案の基礎を習得し、NCD 予防・管理における看護職の役割や今日的課題に関しての自己の考えを明確にする。
到達目標	非感染性疾患（NCD）の予防と管理に関するエビデンスに基づく看護実践について考察する。また、NCD 看護に関する臨床的課題の抽出とそれを解決するための適切な研究方法について理解する。
回数	授　業　内　容
	NCD の予防と管理に関する看護における研究方法および分析方法を教授する。さらに、国内外の先行研究のレビュー、クリティークをもとにした討論を行う

評価方法	プレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(50%)により総合的に評価する。 学生の主体的参加が重視される。
教科書・参考書文献等	
授業形式	テキスト及び国内外の先行研究のレビュー形式。 受講生は提示した課題の内容をプレゼンテーションすること。
備　考	履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に連絡してください。

授業科目名	成人看護学Ⅱ演習Ｂ	担当教員	宮松　直美 教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	2年次 前期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	臨床看護実践の向上のためのエビデンス構築には、介入研究が不可欠である。しかしながら、臨床介入研究は、その方法論が観察研究とは大きく異なる。本科目ではテキストの精読および介入研究に基づいた論文のクリティークをもとに、介入研究の立案と遂行に必要な知識を身につける。
到達目標	質の高いケアとは何か、またはそれを提供するために必要なものは何かについて理解することができる。さらに、介入研究を行う際の効果的なアプローチ法や留意すべき点について理解できる。 自らの関心に即したテーマについて、外国語文献検討ができる力を身につける。
回数	授　業　内　容
	1.Introduction 2.Outcomes Reserch 3.The Theory-Driven Approach to Effectiveness Research 4.Characteristics of Clients 5.Intervener and Setting Characterristics 6.Intervention Variables 7.Outcomes-Related Factors 8.Implications for Effectiveness Research

評価方法	出席(20%)とプレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(30%)により評価する。 学生の主体的参加が重視される。
教科書・参考書文献等	
授業形式	外書講読形式。 受講者は各章を熟読の上、内容をプレゼンテーションすること。
備　考	履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に研究室までいらしてください。

授業科目名	老年看護学特論	担当教員	荻田　美穂子 准教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	1年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	高齢化の国際的動向や我が国の保健福祉政策の動向を理解し、高齢者分野における臨床課題および研究課題を見出す。
到達目標	高齢者を取り巻く保健統計や保健福祉政策の動向について理解できる。 各専門領域における研究動向を理解する。
回数	授　業　内　容
	高齢者の保健統計 高齢者の保健福祉政策 高齢者の権利擁護 フレイル・要介護の疫学と予防 転倒・歩行障害のケア 認知機能障害のケア 排泄機能障害のケア 口腔・嚥下機能障害のケア 高齢者における慢性疾患の管理 高齢者の在宅療養移行支援
評価方法	プレゼンテーション(50%)、討議への参加状況（50%）により評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	学生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。 各自関連文献を講読し、その内容についてプレゼンテーションを行う。
備　考	履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に研究室までいらしてください。

授業科目名	老年看護学演習 A	担当教員	荻田　美穂子 准教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1 年次 後期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	高齢者が陥りやすい健康障害(フレイル・歩行障害・転倒・嚥下障害・排泄障害・認知障害等)に関する国内外の文献レビューを通して、在宅・病院・施設における高齢者看護のあり様を探求する。
到達目標	各専門分野における先行研究レビューを通じて、これまでのエビデンスの集積状況や当該分野で用いられている研究方法を理解することができる。さらに、そのことを踏まえて今後の研究課題を考えることができる。 自身の研究テーマおよび研究方法論について探求する。
回数	授　業　内　容
	フレイルに関する先行研究レビュー①② 老年症候群（転倒・嚥下障害・排泄障害・認知障害など）に関する先行研究レビュー①②③ 各自の研究課題に関連した先行研究のクリティーク①②

評価方法	プレゼンテーション(50%)、討議への参加状況（50%）により評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	学生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。
備　考	履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に研究室までいらしてください。

授業科目名	老年看護学演習 B	担当教員	荻田　美穂子 准教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	2 年次 前期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	高齢者の健康寿命の延命を目的としたケアを提供するため、高齢者の健康と生活を評価するために重要と思われる主要概念と理論、評価尺度を学び、高齢者の特性に応じた効果的な実践と研究のあり方を探求する。
到達目標	高齢者の健康と生活を評価するための評価尺度について理解できる。 高齢者のフレイルや要介護予防、生活の質向上ののための効果的な介入方法について理解できる。 自身の研究テーマおよび研究方法論について探求する。
回数	授　業　内　容
	高齢者看護を題材とした研究テーマおよび研究方法論について検討する。

評価方法	プレゼンテーション(50%)、討議への参加状況（50%）により評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	学生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。
備　考	履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に研究室までいらしてください。

授業科目名	小児看護学特論	担当教員	桑田　弘美 教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	1年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	慢性疾患には多くの種類があるため、その病気によって療育上の困難さの程度・状況が異なる。疾患別に取り上げ、ゼミ形式で子どもと家族が抱える問題点とケアについて理解を深める。
到達目標	さまざまな慢性疾患を持ちながら生活している子どもと家族へのケアについて学ぶ。小児の病気の特徴、病気と発達との関連、特別な配慮が必要な子どもと家族への看護への理解を深める。

回数	授　業　内　容
	1.子どもの病気と発達との関連 2.小児慢性疾患治療研究事業と社会資源 3.呼吸器疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 4.心臓・腎臓疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 5.内分泌・代謝疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 6.悪性新生物・血液疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 7.神経・筋疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 8.脳神経疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 9.心身症をもつ子どもと家族の特徴とケア 10.重症心身障害をもつ子どもと家族の特徴とケア 11.子どもの障害の種類と実際 12.発達障害をもつ子どもと家族の特徴とケア 13.視覚・聴覚・言語障害をもつ子どもと家族の特徴とケア 14.特別支援教育の現状 15.在宅療養をする子どもと家族への支援

評価方法	出席状況、プレゼン、レポートにより総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	パワーポイント、DVDなどを使用する。
備　考	

授業科目名	小児看護学演習 A	担当教員	桑田　弘美 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1 年次 後期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	子どもは家族の中に誕生し、家族に育まれ、成長・発達していく。小児看護に携わる者は、子どもを主体的な存在としてとらえ、家族を含めて子どもの健康を守るために支援する。各理論を理解し、それらに関する文献検討を行い、小児看護の実践において活用できるよう学習する。
到達目標	成長・発達の理論について、その概念を学び、実践能力を養う。
回数	授　業　内　容
	1.セルフケア理論の概要 2.エリクソン自我発達理論の概要 3.ピアジェの認知発達理論の概要 4.親子関係論の概要 5.家族理論の概要 6.成長・発達の理論に関する文献検討 7.成長・発達の理論に関する事例検討
評価方法	出席状況、レポートにより総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	成長・発達の理論をテーマとして、プレゼンテーションを行い、討論する。
備　考	

授業科目名	小児看護学演習 B	担当教員	桑田　弘美 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	2 年次 前期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	難病や障害のある子どもの在宅ケアに関する諸文献を用いて、在宅療養をする子どもと家族への支援を具体化する。
到達目標	難病や障害のある子どもが、学校生活を含めて、在宅で QOL の高い生活を営むための支援について考察する。
回数	授　業　内　容
	難病や障害のある子どもの在宅ケアに関する諸文献を検討し、実際に在宅療養をする子どもに関わることで、在宅ケアの現状における問題点を明らかにし、支援の在り方を考える。

評価方法	出席状況、プレゼンテーションとレポートにより評価する。
教科書・ 参考書文献 等	
授業形式	子どもの在宅ケアについてプレゼンテーションを行い、討論する。
備　考	

授業科目名	ウイメンズヘルス学特論	担当教員	立岡　弓子 教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	1年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	女性の生涯発達としてのライフステージ各期にある主要な健康課題を取り上げ、看護実践の質的向上のために文献レビューを中心としてそのトピックスについてまとめ、研究成果の活用について理解を深める。
到達目標	女性の健康概念をリプロダクティブ・ヘルス／ライツと生涯発達の視点から捉え、ライフステージ各期にある女性とその家族の健康問題について性差の概念から理解を深め、時期に応じた看護援助のあり方について学習し、支援に必要な基礎的能力を養う。
回数	授　業　内　容
	1.女性のライフサイクルにおける健康課題：胎児期 2.女性のライフサイクルにおける健康課題：幼児期 3.女性のライフサイクルにおける健康課題：思春期 4.女性のライフサイクルにおける健康課題：性成熟期 5.女性のライフサイクルにおける健康課題：更年期 6.女性のライフサイクルにおける健康課題：老年期

評価方法	出席（10%)、ディベート能力およびプレゼンテーション（90%）
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義,ディスカッション
備　考	

授業科目名	ウイメンズヘルス看護学 演習	担当教員	立岡　弓子 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1 年次 後期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	看護をとりまく倫理の諸理論について教授する。 母性・助産学領域における倫理的問題について、事例を通して倫理的問題を分析する。 ウィメンズヘルスに関する倫理的問題 3 つについて、様々な立場・視点からプレゼンテーション行う。また、それに基づきメンバー間でディベートを行う。
到達目標	看護をとりまく倫理の諸理論について、学ぶことができる。 母性・助産学領域における倫理的問題のある事例を通して、助産師・看護師の立場から倫理的問題を考えることができる。 ウィメンズヘルスに関する倫理的問題 3 つについて、様々な立場・視点からプレゼンテーション行い、看護職としての役割について考えることができる。
回数	授　業　内　容
	看護を取り巻く諸倫理について考える 事例 1「障害を持つ子どもの親になる」 事例 2「新出生前診断を受けるべきか」 事例 3「生殖補助医療と出自を知る権利は補償されるか」

評価方法	出席（10%）、プレゼンテーション（60%）、討論への参加（30%）
教科書・ 参考書文献 等	
授業形式	プレゼンテーション、討論
備　考	

授業科目名	周産期看護学演習	担当教員	立岡　弓子 教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	2年次 前期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	【Reproductive health issues in a global context】 国外のリプロダクティブヘルス・ライツ（Reproductive Health & Rights）に関するトピックの学習を通して、国のシステムや文化、宗教などをはじめとする諸要因が女性の性と生殖に関する健康や権利に与える影響について考察する。また、これらの諸問題に（日本人）助産師・看護師としてどのように取り組んでいくかと言う自己の姿勢を考察する。
到達目標	1. 女性のリプロダクティブヘルスの向上やリプロダクティブライツの保障について、国際社会で取り組まれている動向を把握することができる。 2. 日本国外の女性がおかれている状況、特にリプロダクティブヘルスやライツについて、様々な関連要因を考察することができる。 3. 国際社会との比較の上でわが国の女性のリプロダクティブヘルスやライツについて考察し、その特徴、他国との共通点や相違点などを明確にすることができる。 4. （日本人）助産師・看護師として、国外の女性のリプロダクティブヘルスの向上やライツの保障のため
回数	授　業　内　容
	主に海外文献を参照しながら、課題についてまとめてプレゼンテーションし、討論する形式ですすめる。 1. Millennium Development Goals（ミレニアム開発目標：MDGs）とリプロダクティブヘルス関連の課題 2000 年、国際社会は 2015 年までに達成すべき開発目標を掲げ、その中で「Improve matenral health」「Promote gender equality and empower women」をはじめ、女性の健康の向上や権利の保障についての課題が取上げられた。15 年間にわたるこれらの目標の達成状況を概観する。 2. Sustainable Development Goals MDGs の 2015 年までの達成状況の評価を踏まえて、更に今後 2030 年までの 15 年間に国際社会が取り組むべき目標が発表された。このうち、女性のリプロダクティブヘルスやライツに関係する目標について考察を深める。 3. 開発途上国における事例を取上げ、討議する（外国語文献）。 4. 先進国における事例を取上げ、討議する（外国語文献）。 5. 学生が任意の 1 カ国を取上げ、女性のリプロダクティブヘルスやライツに与える影響について多角的に考察してプレゼンテーションし、他学生や教員と討議する。

評価方法	出席（10%）、クリティーク能力（40%）、プレゼンテーション（30%）、討論への参加（20%）
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義、プレゼンテーション、討論
備　考	学生の積極的な参加を求めます。

授業科目名	精神看護学特論	担当教員	河村　奈美子 教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	1年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	精神看護の実践の基礎となる対象理解のための理論を学ぶ。さらに、実践の場で出会う主な疾患とその治療法、加えて看護ケアを行うためのアセスメントの方法についての理解を深め、その応用力の強化を図る。
到達目標	看護学における精神看護学の位置づけや、精神看護学の基盤となる理論や概念に対する理解を深め、精神看護学の実践科学としての方向性を学ぶ。また、精神看護学および関連学問領域における研究動向、精神保健医療福祉の歴史的検証、精神科専門看護師の実践能力開発の必要性とその役割や機能および援助方法について検討を行い、実践活動への示唆を得る。
回数	授　業　内　容
	特論のため他領域の大学院生も受講する可能性があることから、精神看護の実践の基礎となる対象理解を中心に教授する。また、一般病棟において出会う可能性の高い精神疾患とその治療法、加えて看護ケアを行うためのアセスメントの方法について修得する。

評価方法	出席率（３０%）および授業内での課題に対する学習成果の発表（プレゼンテーション）（３０%）、ディスカッションにおける積極性（１０%）と課題レポート（３０%）の割合にて総合的に判断する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義ならびにディスカッションにより授業を行う。 社会人学生が多いため、開講日時については話し合いにより柔軟に対応するが、内容と回数については上記に準拠する。
備　考	気楽に、でも積極的に議論に参加するよう心掛けていただきたい。 電話やメールによる事前連絡の上で日程調整を図ることを前提に、相談には適宜対応する。

授業科目名	精神看護学演習 A	担当教員	河村　奈美子 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1 年次 後期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	精神看護において看護師に求められる高度な臨床実践能力や臨床研究能力を示すために、最新の精神医療に関する知識に基づいたケア提供における理論的背景の洗練と、結果としてのエビデンスに基づくケア提供の実際について修得する。
到達目標	精神保健福祉と精神看護の領域におけるさまざまな今日的課題について解説しながら、わが国における看護実践と研究の課題について探求する。
回数	授　業　内　容
	最新の精神医療に関する知識に基づくケア提供の理論的背景として様々な理論について確認し、看護実践における有効性や限界について確認する。
評価方法	授業参加態度(50%)と課題に対する取りくみ（プレゼンテーションを含む）(50%)により総合的に判断する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義及びディスカッション形式にて行う。社会人学生が多い場合は、開講日時については話し合いにより柔軟に対応するが、上記の内容と回数に準拠する。
備　考	気楽に、でも積極的に議論に参加するよう心掛けてください。 電話やメールによる事前連絡の上で日程調整を図ることを前提に、相談には適宜対応します。

授業科目名	精神看護学演習 B	担当教員	河村　奈美子 教授 臨床看護学講座	年次 前・後期	2 年次 前期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	MMSE や自我構造、セルフケアモデルを活用し、複雑な状況にある対象理解について心理社会的にアセスメントを行い、対象理解できるとともに、対象への看護介入について学修する。さらに、発達障害の理解と支援、虐待や認知症患者に対するケア、司法看護など、社会的課題に対する看護について学び、より専門的な看護の役割を学修する。
到達目標	精神看護の実践の基礎となるさまざまな看護理論について理解をより深め、さらにより複雑な事例に対する看護の実践につながる力を養う。
回数	授　業　内　容
	広義の精神看護について理論的に学習し理論と実践の統合を図る。

評価方法	授業の参加態度（50%）と課題への取り組み（プレゼンテーション）（50%）にて総合的に判断する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義とディスカッション形式で進めます。 社会人学生が多いため、開講日時については話し合いにより柔軟に対応し、内容は上記の内容と回数に準拠する。
備　考	気楽に、でも積極的に議論に参加するよう心掛けてください。 電話やメールによる事前連絡の上で日程調整を図ることを前提に、相談には適宜対応します。

授業科目名	地域看護学Ⅰ特論	担当教員	伊藤　美樹子 教授 公衆衛生看護学講座	年次 前・後期	1年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	近年社会構造の変化に伴い人々を取り巻く社会環境に格差が生じ、その健康への影響が明らかになってきました。本講座では、経済格差の広がる現代において公衆衛生の専門職の責務である「健康の保持増進の公正な機会」を保障する上で必要な能力のさらなる向上を目指します。
到達目標	1.健康の社会的な構築や健康の社会的決定要因など、健康格差を考える上での基本的概念を理解する。 2.公衆衛生に関わる現象や課題について、クリティカルに分析する能力を獲得する。
回数	授　業　内　容
	第1回：ガイダンス 第2回：公衆衛生の原理原則の確認 第3回：健康の社会的構築1 第4回：健康の社会的構築2 第5回：健康の社会的決定要因1 第6回：健康の社会的決定要因2 第7回：健康の不平等（健康格差） 1 第8回：健康の不平等（健康格差） 2 第9回：健康問題や現象の解釈の視点（Critical perspectives）1 第10回：健康問題や現象の解釈の視点（Critical perspectives）2 第11回：研究の対象とする現象の再定義1 第12回：研究の対象とする現象の再定義2 第13回：プレゼンテーションと評価1 第14回：プレゼンテーションと評価2 第15回：まとめ

評価方法	討議への参加、プレゼンテーション、課題レポートを総合して評価
教科書・参考書文献等	
授業形式	文献（主として英文）を読み討議を行います。
備　考	英語の文献を毎週数本ずつ読んできてもらいます。文献をもとに討議を行います。討議に参加できない場合には単位の認定ができませんので、開始前までに英語のブラッシュアップをしておいてください。 また、公衆衛生および公衆衛生看護の基本的知識を持っていることを前提とします。忘れている場合には必ず復習しておいてください。 注）履修登録の前に必ず事前にご連絡下さい。（履修登録締め切り日の1週間前までに必ずご連絡下さい。）

授業科目名	地域看護学Ⅰ演習Ａ	担当教員	輿水　めぐみ 講師 公衆衛生看護学講座	年次 前・ 後期	1年次 後期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	公衆衛生看護領域の国内外の文献を体系的に整理・分析することを通して、自らの研究に適した研究テーマや方法論を探る。
到達目標	公衆衛生看護領域における対象とその健康課題の特性および支援方法について、系統的に文献検討を行い、公衆衛生看護研究および実践への適用とあり方について探究する。
回数	授　業　内　容
	公衆衛生看護に関連した論文を講読し、プレゼンテーションを通して討論する。 1）公衆衛生看護の対象特性やニーズの特徴を明らかにした論文 2）公衆衛生看護の実践方法の解明や開発に関する論文 3）地域ケア体制の構築に関する論文

評価方法	プレゼンテーション(50%)、討論への参加度(50%)により総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	ゼミナール
備　考	履修を希望する学生は、受講登録前に必ず相談してください。 相談等は適宜対応いたします。なお、事前に電話やメールでアポイントをとってください。

授業科目名	地域看護学Ⅰ演習 B	担当教員	伊藤　美樹子 教授 公衆衛生看護学講座	年次 前・後期	2 年次 前期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	対象となる人々が健康課題に対して、知識の習得と理解・態度の変容・行動の変容を獲得するプロセスを学ぶ。
到達目標	1）公衆衛生における健康教育と保健行動について理解できる。 2）保健行動・ヘルスプロモーションに関する基礎理論を理解できる。 3）健康教育のアプローチについて理解できる。
回数	授　業　内　容
	1. 健康教育の理念 2. 知識の普及と態度および行動変容 3. 健康の自己管理能力に関する理論 4. 健康教育の方法とその評価 5. ヘルスプロモーションと社会的支援 6. コミュニティオーガナイゼーション

評価方法	成績は出席、授業への参加度、レポートをもとに総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	講義と演習
備　考	積極的に議論に参加をしてください。 相談等適宜対応しますが、事前に電話やメールでの時間調整をお願いします。

高度実践コース
（看護管理実践）

授業科目名	看護管理特論	担当教員	中西　京子 准教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	1年次 前期	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	変革が進む医療システムの中で、看護専門職として組織経営を理解し役割を発揮していくために、看護管理に関連する諸理論や概念を理解し、看護管理に関連した研究課題を見出す。
到達目標	1．看護管理に必要な知識体系について総合的に理解する。 2．看護管理に関連する理論とその発展過程について理解する。 3．看護管理の現状とその課題について理解する。 4．看護管理に関連した研究テーマについて明らかにする。
回数	授　業　内　容
	第1回　ガイダンス　看護管理学の概説 第2回　看護組織管理論 第3回　グループマネジメント 第4回　人的資源活用論 第5回　職業性ストレスマネジメント 第6回　人間関係管理論 第7回　労務管理（1） 第8回　労務管理（2） 第9回　看護管理に関する研究の動向 第10回　制度・政策に関する研究 第11回　看護サービス提供論 第12回　看護活動と医療経営 第13回　プレゼンテーション 第14回　プレゼンテーション 第15回　プレゼンテーション・まとめ

評価方法	プレゼンテーション（50%）、討議への参加状況（50%）により評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	大学院生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。
備　考	

授業科目名	看護管理演習Ⅰ	担当教員	中西　京子 准教授 基礎看護学講座	年次 前・ 後期	1年次 後期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	看護管理に関連した国内外の文献を購読し、看護管理の専門的な知識を深めるとともに、自己の研究課題を探求し、研究計画書の作成をめざす。
到達目標	1．各自の研究課題に関連した国内外の研究論文を批判的に吟味できる。 2．各自の研究課題に関連した研究手法について説明できる。 3．各自の研究課題に関連した研究手法の倫理的問題について考察できる。 4．各自の研究課題の研究デザインが説明できる。
回数	授　業　内　容
	第1回　ガイダンス　　看護管理領域の研究 第2回　看護管理関連論文検討（1） 第3回　看護管理関連論文検討（2） 第4回　看護管理関連論文検討（3） 第5回　看護管理関連論文検討（4） 第6回　看護管理関連論文検討（5） 第7回　看護管理関連論文検討（6） 第8回　看護管理関連論文検討（7） 第9回　看護管理関連論文検討（8） 第10回　看護管理関連論文検討（9） 第11回　看護管理関連論文検討（10） 第12回　課題探究と研究計画立案（1） 第13回　課題探究と研究計画立案（2） 第14回　課題探究と研究計画立案（3） 第15回　まとめ

評価方法	プレゼンテーション（50%)、討議の参加状況（50%）により評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	大学院生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。
備　考	

授業科目名	看護管理演習Ⅱ	担当教員	中西　京子 准教授 基礎看護学講座	年次 前・後期	2年次 前期	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	看護管理論に関連した諸理論や方法論の学習を深め、看護管理的課題探究の基盤を作るとともに、自己の研究課題を明確にする。
到達目標	1．各自の研究テーマの意義を明確にできる。 2．各自の研究デザインを多面的に検討できる。 3．各自の研究に関連したデータの収集方法を検討できる。 4．各自の研究に関連したデータの整理・分析を行うことができる。 5．各自の研究に関連した論文のまとめ方が検討できる。
回数	授　業　内　容
	第1回　ガイダンス　理論の適用、概念の明確化 第2回　研究デザインの多面的分析 第3回　研究計画の立案と検討（1）データの収集方法の検討 第4回　研究計画の立案と検討（2）データの収集方法の検討 第5回　研究計画の立案と検討（3）データの収集方法の検討 第6回　研究計画の立案と検討（4）分析方法の検討 第7回　研究計画の立案と検討（5）分析方法の検討 第8回　研究計画の立案と検討（6）分析方法の検討 第9回　研究計画の立案と検討（7）分析方法の検討 第10回　研究計画の立案と検討（8）分析方法の検討 第11回　研究計画書（発表・検討）（1） 第12回　研究計画書（発表・検討）（2） 第13回　研究計画書（発表・検討）（3） 第14回　研究計画書（発表・検討）（4） 第15回　まとめ

評価方法	プレゼンテーション（５０%)、討議への参加状況（５０%）により評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	大学院生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。
備　考	

高度実践コース
（特定行為）

授業科目名	呼吸管理学実習Ⅰ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	実習					単位数	1

授業目的	手順書をもとに、身体的所見及び検査結果などが手順書の特定行為を実施する範囲にあるかをアセスメントし、適切な部位に位置するように、経口用気管チューブや経鼻用気管チューブの位置調節を安全に行うためのスキルを学ぶ。
到達目標	手順書を活用し、患者の状況にあった経口、および経鼻気管チューブの位置が適切に調整できる。 1）気道確保に関する局所解剖が理解できる。 2）経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関する病態生理が理解できる。 3）経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメントを行うことができる。 4）経口又は経鼻気管挿管の目的、適応と禁忌について説明できる。 5）経口用気管チューブ又は、経鼻用気管チューブの位置の調整に伴うリスク（有害事象とその対策）を説明でき、（医師到着までの）対応ができる。 6）手順書をもとに、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置調整を安全に実施できる。 7）経口用・経鼻用気管チューブの位置調整の特定行為を行う看護師の役割を発展的にイメージでき、行動レベルで説明できる。
回数	授　業　内　容
	特定行為区分共通して学ぶ事項 1)気道確保に関する局所解剖 2)経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関する病態生理 3)経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント 4)経口又は経鼻気管挿管の目的 5)経口又は経鼻気管挿管の適応と禁忌 6)経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの種類と適応 7)経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブによる呼吸管理 8)バックバルブマスク（BVM）を用いた用手換気 特定行為ごとに学ぶ事項 9)経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の目的 10)経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の適応と禁忌 11)経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に伴うリスク（有害事象とその対策等） 12)経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技

評価方法	筆記試験、客観的臨床能力試験（OSCE）、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。
教科書・参考書文献等	呼吸管理学実習Ⅰ
授業形式	e-ラーニングによる講義、及び、スクーリングによる講義、実習。実習前にはシミュレーションを実施する。 筆記試験、OSCE（Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験）あり。患者に対して行う実習は、これらを合格した者が実施できる。
備　考	事前学習をしているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

授業科目名	呼吸管理学実習Ⅱ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	120
授業形態	実習					単位数	4

授業目的	・人工呼吸療法で必要な知識やアセスメントスキルを学び、迅速に判断する能力を養い、患者に安全安楽な人工呼吸療法を援助する方法を学ぶ。 ・人工呼吸療法に関する解剖・病態生理を学び、人工呼吸管理中に必要なフィジカルアセスメントや適切な設定についてアセスメントする手技を学ぶ。また、多様化する人工呼吸器のメカニズムや構造について学習する。 1）人工呼吸療法の目的、適応と禁忌について説明できる。 2）人工呼吸療法に関する局所解剖について理解できる。 3）人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理について理解できる。 4）人工呼吸療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメントが説明でき、実践できる。 5）人工呼吸器管理の適応と禁忌が説明できる。 6）人工呼吸器のメカニズム・種類・構造について説明できる。 7）呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連の特定行為を行う看護師の役割を発展的にイメージでき、チーム医療の一員としての役割を行動レベルで説明できる。
到達目標	・人工呼吸療法で必要な知識やアセスメントスキルを学び、迅速に判断する能力を養い、患者に安全安楽な人工呼吸療法を援助する方法を学ぶ。 ・人工呼吸療法に関する解剖・病態生理を学び、人工呼吸管理中に必要なフィジカルアセスメントや適切な設定についてアセスメントする手技を学ぶ。また、多様化する人工呼吸器のメカニズムや構造について学習する。

回数	授　業　内　容
	1）人工呼吸療法の目的 2）人工呼吸療法の適応と禁忌 3）人工呼吸療法に関する局所解剖 4）人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理 5）人工呼吸療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 6）人工呼吸器管理の適応と禁忌 7）人工呼吸器のメカニズム・種類・構造

評価方法	筆記試験、その他（提出物、出席状況、演習など授業に取り組む姿勢など、）を加味し、総合的に評価します。
教科書・参考書文献等	呼吸管理学実習Ⅱ
授業形式	スクーリングによる講義、演習。
備　考	事前課題あり。プレゼンテーションをします。 事前学習をしているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

授業科目名	呼吸管理学実習Ⅲ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	実習					単位数	1

授業目的	手順書をもとに、気管カニューレの状態（カニューレ内の分泌物の貯留、内腔の狭窄の有無等)、身体的所見及び検査結果などが手順書の特定行為を実施する範囲にあるかアセスメントし、安全に気管カニューレ交換を行うスキルを学ぶ。
到達目標	1）気管切開に関する局所解剖が理解できる。 2）気管切開を要する主要疾患の病態生理が理解できる。 3）気管切開を要する主要疾患のフィジカルアセスメントを行うことができる。 4）気管切開の目的、適応と禁忌が説明できる。 6）気管切開に伴うリスク（有害事象）が説明でき、（医師到着までの）対応ができる。 7）気管カニューレの適応と禁忌が説明できる。 8）気管カニューレの構造と選択が理解できる。 9）気管カニューレの交換の手技を理解し、手順書にもとづき安全に実施できる。 １０）気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応について説明できる。 １１）気管カニューレの交換の特定行為を行う看護師の役割を発展的にイメージでき、行動レベルで説明できる。
回数	授　業　内　容
	特定行為区分共通して学ぶ事項 1）気管切開に関する局所解剖 2）気管切開を要する主要疾患の病態生理 3）気管切開を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4）気管切開の目的 5）気管切開の適応と禁忌 6）気管切開に伴うリスク（有害事象とその対策等） 特定行為ごとに学ぶ事項 7）気管カニューレの適応と禁忌 8）気管カニューレの構造と選択 9）気管カニューレの交換の手技 １０）　気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応
評価方法	筆記試験、客観的臨床能力試験（OSCE)、各種実習の観察評価あり。 終了時の筆記試験、客観的臨床能力試験（OSCE)、各種実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、演習など授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。
教科書・参考書文献等	呼吸管理学実習Ⅲ
授業形式	e-ラーニングによる講義、及び、スクーリングによる講義、実習。実習前にはシミュレーションを実施する。 筆記試験、OSCE（Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験）あり。患者に対して行う実習は、これらを合格した者が実施できる。
備　考	事前学習をしているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

授業科目名	循環管理学実習Ⅰ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	90
授業形態	実習					単位数	3

授業目的	一時的ペースメーカ、経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングの必要性やその特徴を理解し、安全に一時的ペースメーカの操作及び管理と抜去、経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングの管理を実践できる。
到達目標	・　医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、一時的ペースメーカの操作及び管理と抜去、経皮的心肺補助装置の操作及び管理、大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整ができるようになる。 ・　手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 ・　医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 ・　実施、報告の一連の流れが適切に行える。
回数	授　業　内　容
	1.　一時的ペースメーカ、経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングに関する局所解剖 2.　一時的ペースメーカ、経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングを要する主要疾患の病態生理 3.　一時的ペースメーカ、経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングを要する主要疾患のフィジカルアセスメント

評価方法	筆記試験、その他（提出物、出席状況、授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。 全日病 S-QUE 看護師特定行為研修 e-ラーニングの授業は、コマ毎に確認テストがあります。
教科書・参考書文献等	循環管理学実習Ⅰ
授業形式	スクーリングと e-ラーニングによる講義。 ※全日病 S-QUE 看護師特定行為研修 e-ラーニング（学内外よりアクセス可）
備　考	事前学習をしているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

授業科目名	循環管理学実習Ⅱ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	60
授業形態	実習					単位数	2

授業目的	多様な臨床場面で必要な治療を理解し、患者の病態を判断する能力を身につけるために、動脈血液ガス分析に必要な知識と技術を理解し、患者に対し安全に特定行為を実施することができる。 手順書に基づき、特定行為の対象となる患者の病態の範囲から、直接動脈穿刺及び橈骨動脈ラインの確保が適切であるか適応を判断できる能力を養い、患者に安全に直接動脈穿刺法による採血及び橈骨動脈ラインの確保ができるスキルを学ぶ。
到達目標	1）　動脈血液ガス分析に必要な基本的知識を習得する。 2）　動脈血液ガス分析が必要な病態が理解できる。 3）　直接動脈穿刺法による動脈血液ガス分析が安全に実施できる。 4）　橈骨動脈ラインの確保が安全に実施できる。 5）　直接動脈穿刺法による採血及び橈骨動脈ラインの確保の特定行為を行う看護師の役割を発展的にイメージし、行動レベルで説明できる。
回数	授　業　内　容
	【講義】※一部、演習・実習を含む 特定行為区分に含まれる特定行為に共通して学ぶべき事項 1）動脈穿刺法に関する局所解剖 2）動脈穿刺法に関するフィジカルアセスメント 3）超音波検査による動脈と静脈の見分け方 4）動脈血採取が必要となる検査 5）動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態

評価方法	筆記試験、客観的臨床能力試験（OSCE)、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。
教科書・参考書文献等	循環管理学実習Ⅱ
授業形式	e-ラーニングによる講義、及び、スクーリングによる講義、演習、実習。 筆記試験、OSCE（Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験）あり。 患者に対して行う臨地実習は、これらを合格した者が実施できる。
備　考	事前学習しているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

授業科目名	循環管理学実習Ⅳ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	120
授業形態	実習					単位数	4

授業目的	環動態に関する局所解剖・主要症候について学ぶ。 循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患の病態生理・フィジカルアセスメントについて学ぶ。 輸液療法の目的と種類、適応と禁忌について学ぶ 輸液時に必要な検査について学ぶ。 輸液療法の計画について学ぶ。 臨床での循環管理の実際を学び、循環動態に係る薬剤投与量の調整ができる。
到達目標	環動態に関する局所解剖について説明できる。 循環動態に関する主要症候について説明できる。 循環動態の薬物療法を必要とする必要とする主要疾患の病態生理について説明できる。 循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメントを説明できる。 輸液療法の目的と種類について説明できる。 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌について説明できる。 輸液時に必要な検査について説明できる。 輸液療法の計画を立案することができる。
回数	授　業　内　容
	1）循環動態に関する局所解剖 2）循環動態に関する主要症候 3）循環動態の薬物療法を必要とする必要とする主要疾患の病態生理 4）循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメント 5）輸液療法の目的と種類 6）病態に応じた輸液療法の適応と禁忌 7）輸液時に必要な検査 8）輸液療法の計画

評価方法	筆記試験、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、演習などでの授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。
教科書・参考書文献等	循環管理学実習Ⅳ
授業形式	e-ラーニングによる講義、及び、スクーリングによる講義、演習、実習。 筆記試験あり。患者に対して行う実習は、これを合格した者が実施できる。
備　考	事前学習しているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

授業科目名	外科管理学実習Ⅰ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	60
授業形態	実習					単位数	2

授業目的	・　腹腔ドレーンの必要性やその特徴を理解し、腹腔ドレーンの抜去を実践できる。 ・　医師の指示の下、手順書により、身体所見（排液の性状や量、腹痛の程度、挿入部の状態等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、腹腔内に挿入・留置されているドレーン又は穿刺針を抜去する。抜去部は、縫合、結紮閉鎖又は閉塞性ドレッシング剤の貼付を行う。縫合糸で固定されている場合は抜糸を行うことができる。
到達目標	・ ・医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、腹腔ドレーンの抜去ができるようになる。 ・手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 ・医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 ・実施、報告の一連の流れが適切に行える。
回数	授　業　内　容
	特定行為区分共通して学ぶ事項 1. 腹腔ドレナージに関する局所解剖 2. 腹腔ドレナージを要する主要疾患の病態生理 3. 腹腔ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 腹腔ドレナージの目的 5. 腹腔ドレナージの適応と禁忌 6. 腹腔ドレナージに伴うリスク（有害事象とその対策等） 特定行為ごとに学ぶ事項 1. 腹腔ドレーンの抜去の適応と禁忌 2. 腹腔ドレーンの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等） 3. 腹腔ドレーンの抜去の方法と手技

評価方法	筆記試験、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、演習など授業に取り組む姿勢など、）を加味し、総合的に評価します。 全日病 S-QUE 看護師特定行為研修 e-ラーニングの授業は、コマ毎に確認テストがあります。
教科書・参考書文献等	外科管理学実習Ⅰ
授業形式	スクーリングと e-ラーニングによる講義。実習前にはシミュレーションを実施する。筆記試験あり。患者に対して行う臨地実習は、これを合格した者が実施できる。
備　考	事前学習をしているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

授業科目名	外科管理学実習Ⅱ	担当教員	遠藤　善裕 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	60
授業形態	実習					単位数	2

授業目的	腹腔ドレーンの必要性やその特徴を理解し、腹腔ドレーンの抜去を実践できる。 ・　医師の指示の下、手順書により、身体所見（排液の性状や量、腹痛の程度、挿入部の状態等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、腹腔内に挿入・留置されているドレーン又は穿刺針を抜去する。抜去部は、縫合、結紮閉鎖又は閉塞性ドレッシング剤の貼付を行う。縫合糸で固定されている場合は抜糸を行うことができる。
到達目標	・医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、腹腔ドレーンの抜去ができるようになる。 ・手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 ・医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 ・実施、報告の一連の流れが適切に行える。
回数	授　業　内　容
	特定行為区分共通して学ぶ事項 1. 腹腔ドレナージに関する局所解剖 2. 腹腔ドレナージを要する主要疾患の病態生理 3. 腹腔ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 腹腔ドレナージの目的 5. 腹腔ドレナージの適応と禁忌 6. 腹腔ドレナージに伴うリスク（有害事象とその対策等） 特定行為ごとに学ぶ事項 1. 腹腔ドレーンの抜去の適応と禁忌 2. 腹腔ドレーンの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等） 3. 腹腔ドレーンの抜去の方法と手技

評価方法	筆記試験、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、演習など授業に取り組む姿勢など、）を加味し、総合的に評価します。 全日病 S-QUE 看護師特定行為研修 e-ラーニングの授業は、コマ毎に確認テストがあります。
教科書・参考書文献等	外科管理学実習Ⅱ
授業形式	スクーリングと e-ラーニングによる講義。実習前にはシミュレーションを実施する。筆記試験あり。患者に対して行う臨地実習は、これを合格した者が実施できる。
備　考	事前学習をしているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

授業科目名	外科管理学実習Ⅲ	担当教員	遠藤　善裕 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	実習					単位数	1

授業目的	皮下組織の解剖生理と、創傷の治癒過程、ドレナージが必要な病態、ドレナージによる影響、ドレーンの構造や種類・機能、ドレーン留置による合併症についての正しい理解と、ドレーンを抜去する、合併症発生時に対応する技術、創傷管理を行う医療チームの一員として協働する姿勢を養うこと。
到達目標	創部ドレナージに関する局所解剖が理解できる。 創部ドレナージを要する主要疾患の病態生理が理解できる。 創部ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメントを行うことができる。 創部ドレナージの目的について説明できる。 創部ドレーンの抜去の適応と禁忌について説明できる。 創部ドレーンの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等）について説明できる。 創部ドレーンの抜去の方法と手技を理解できる。
回数	授　業　内　容
	特定行為区分共通して学ぶ事項 1）創部ドレナージに関する局所解剖 2）創部ドレナージを要する主要疾患の病態生理 3）創部ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4）創部ドレナージの目的 5）創部ドレナージの適応と禁忌 6）創部ドレナージに伴うリスク（有害事象とその対策等） 特定行為ごとに学ぶ事項 （1）創部ドレーンの抜去の適応と禁忌 （2）創部ドレーンの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等） （3）創部ドレーンの抜去の方法と手技

評価方法	
教科書・参考書文献等	
授業形式	スクーリングによる講義、実習。実習前にはシミュレーションを実施する。筆記試験あり、患者に対して行う臨地実習は、これを合格した者が実施できる。
備　考	事前学習しているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。 モデルを使った実習時間内だけでの手技の習得は困難です。事前に参考図書・センターの教材を利用し練習しておくこと。

授業科目名	栄養管理学実習Ⅰ	担当教員	佐々木　雅也 教授 基礎看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	60
授業形態	実習					単位数	2

授業目的	高血糖、低血糖の病態について学ぶ。 各種糖質輸液、電解質輸液の種類と特徴について学ぶ。 各種糖質輸液、電解質輸液の適応と使用方法について学ぶ。 病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整方法について学ぶ。
到達目標	高血糖、低血糖の病態を正しく理解し、血糖コントロールを適切におこなうために必要な臨床判断力や実践力を身につける。また、血糖管理における合併症と看護ケアに関する知識とスキルを習得する。
回数	授　業　内　容
	高血糖、低血糖の病態。 各種糖質輸液、電解質輸液の種類と特徴 各種糖質輸液、電解質輸液の適応と使用方法 病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整方法 糖質輸液、電解質輸液の合併症と対策

評価方法	筆記試験、レポートなど
教科書・参考書文献等	
授業形式	スクリーニングによる講義と実習。
備　考	静脈栄養、経腸栄養における代謝性合併症として、高血糖や低血糖は重要です。病態を正しく理解し、対応できる知識とスキルを学んでいただきたい。

授業科目名	栄養管理学実習Ⅱ	担当教員	佐々木　雅也 教授 基礎看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	90
授業形態	実習					単位数	3

授業目的	・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換に関する局所解剖。 ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうを有する患者の病態生理。 ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうを有する患者のフィジカルアセスメント ・胃ろうカテーテル、胃ろうボタン、腸ろうカテーテル、膀胱ろうカテーテルの種類と特徴 ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換について 目的 適応と禁忌 手技 合併症
到達目標	・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換に関する局所解剖が理解できる。 ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうを有する患者の病態整理が理解できる。 ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうを有する患者のフィジカルアセスメントが実施できる。 ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換の目的について理解できる。 ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換の適応と禁忌について理解できる。 ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換に伴うリスクについて理解できる。 ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換の方法と手技を理解できる。
回数	授　業　内　容
	スクリーニングによる講義と実習。筆記試験と OSCE あり。患者に対する臨地実習は、これらを合格した者が実施できる。

評価方法	筆記試験、OSCE、実習の観察評価を重視し、出席状況やレポートなども加味して総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	スクリーニングによる講義、実習。
備　考	胃瘻や腸瘻管理は、経腸栄養管理において重要です。是非、基本的な知識とスキルを習得していただきたい。

授業科目名	栄養管理学実習Ⅲ	担当教員	佐々木　雅也 教授 基礎看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	実習					単位数	1

授業目的	中心静脈カテーテルを用いた栄養管理に必要な知識と技術を理解し、患者に対し安全に特定行為を実施することができる。
到達目標	・中心静脈カテーテル管理のための局所解剖が理解できる。 ・中心静脈カテーテルを有する患者の病態整理が理解できる。 ・中心静脈カテーテルを有する患者のフィジカルアセスメントが実施できる。 ・中心静脈栄養の目的について理解できる。 ・中心静脈栄養の適応と禁忌について理解できる。 ・中心静脈栄養に関する合併症と対策について理解する。
回数	授　業　内　容
	・中心静脈カテーテル管理に関する局所解剖。 ・中心静脈カテーテルを有する患者の病態生理。 ・中心静脈カテーテルを有する患者のフィジカルアセスメント ・中心静脈カテーテルの種類と特徴 ・中心静脈カテーテル挿入と抜去の手技について ・中心静脈栄養の適応と禁忌について ・中心静脈栄養の合併症と対策について

評価方法	筆記試験、OSCE、実習の観察評価を重視し、出席状況やレポートなども加味して総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	スクリーニングによる講義と実習。筆記試験を実施する。
備　考	中心静脈カテーテルの管理に関する知識とスキルを習得していただきたい。また中心静脈栄養法の適応と禁忌、方法、合併症と対策について、詳しく学んでいただきたい。

授業科目名	栄養管理学実習Ⅳ	担当教員	佐々木　雅也 教授 基礎看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	60
授業形態	実習					単位数	2

授業目的	・末梢型中心静脈カテーテル（PICC)管理に必要な知識とスキルを習得する。 ・手順書に基づき、特定行為の対象となる患者の病態の範囲から、PICC を挿入・管理するスキルを学ぶ。
到達目標	・PICC 挿入・管理のための局所解剖が理解できる。 ・PICC を有する患者の病態整理が理解できる。 ・PICC を有する患者のフィジカルアセスメントが実施できる。 ・PICC を挿入する目的について理解できる。 ・PICC を挿入する適応と禁忌について理解できる。 ・PICC を挿入するリスクについて理解できる。 ・PICC 挿入に関する合併症と対策について理解する。
回数	授　業　内　容
	・PICC 挿入に関する局所解剖。 ・PICC を有する患者の病態生理。 ・PICC を有する患者のフィジカルアセスメント ・PICC の種類と特徴 ・PICC 挿入の手技について ・PICC 挿入の適応と禁忌について ・PICC の合併症と対策について

評価方法	筆記試験、OSCE、実習の観察評価を重視し、出席状況やレポートなども加味して総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	スクリーニングによる講義と実習。筆記試験と OSCE あり。患者に対する臨地実習は、これらを合格した者が実施できる。
備　考	PICC の基本について学んで頂きたい。

授業科目名	栄養管理学実習Ⅴ	担当教員	佐々木　雅也 教授 基礎看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	90
授業形態	実習					単位数	3

授業目的	・栄養・水分管理に係る薬剤投与に必要な知識とスキルを習得する。 ・手順書に基づき、特定行為の対象となる患者の病態の範囲から、患者に安全に持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正ができるスキルを習得する。
到達目標	・水・電解質バランスの必要性について理解する。 ・水・電解質の補給の適応と禁忌について理解する。 ・栄養管理に必要な高カロリー輸液の適応と禁忌について理解する。 ・高カロリー輸液患者の病態を理解し、高カロリー輸液の投与量の調整ができる。 ・脱水症状の患者に対して、安全に輸液による補正ができる。
回数	授　業　内　容
	・輸液療法の管理 局所解剖、フィジカルアセスメント、輸液療法の種類と特徴など ・高カロリー輸液の調整 低栄養状態の病態生理、フィジカルアセスメントなど ・脱水症状に対する輸液の補正 病態生理、フィジカルアセスメントなど

評価方法	筆記試験、実習の観察評価を重視し、レポートや出席状況なども加味して総合的に評価する。
教科書・参考書文献等	
授業形式	e-ラーニングによる講師、およびスクリーニングによる講義と実習。
備　考	輸液による水分管理の基礎について学んで頂きたい。

授業科目名	創傷管理学実習Ⅰ	担当教員	遠藤　善裕 教授 臨床看護学講座	年次 前・ 後期	1～2年次	時間数	60
授業形態	実習					単位数	2

授業目的	表皮・皮下組織の解剖生理及び、褥瘡・慢性創傷の治癒過程、褥瘡・慢性創傷の要因となる疾患、褥瘡・慢性創傷の全身への影響、褥瘡・慢性創傷の治療方法及び予防方法についての理解を養うこと。褥瘡発生の予防が行える技術を養うこと。創傷管理を行う医療チームの一員としての姿勢を養うこと。
到達目標	1）皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖について説明できる。 2）主要な基礎疾患の管理について説明できる。 3）全身・局所のフィジカルアセスメントができる。 4）慢性創傷の種類と病態について説明できる。 5）褥瘡の分類、アセスメント・評価ができる。 6）治癒のアセスメントとモニタリング（創傷治癒過程、TIME理論等）ができる。 7）リスクアセスメントができる。 8）褥瘡及び創傷治癒と栄養管理について説明できる。 9）褥瘡及び創傷治癒と体圧分散について説明できる。 10）褥瘡及び創傷治癒と排泄管理について説明できる。 11）褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズムについて説明できる。 12）感染のアセスメントについて説明できる。 13）褥瘡の治癒のステージ別局所療法について説明できる。 14）下肢創傷のアセスメントができる。 15）下肢創傷の病態別治療について説明できる。 16）慢性創傷のアセスメントができる。 17）手順書案が作成できる。

回数	授　業　内　容
	1）皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖 2）主要な基礎疾患の管理 3）全身・局所のフィジカルアセスメント 4）慢性創傷の種類と病態 5）褥瘡の分類、アセスメント・評価 6）治癒のアセスメントとモニタリング（創傷治癒過程、TIME 理論等） 7）リスクアセスメント 8）褥瘡及び創傷治癒と栄養管理 9）褥瘡及び創傷治癒と体圧分散 10）褥瘡及び創傷治癒と排泄管理 11）DESIGN-R に基づいた治療指針 12）褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム 13）感染のアセスメント 14）褥瘡の治癒のステージ別局所療法 15）下肢創傷のアセスメント 16）下肢創傷の病態別治療 17）創部哆開創のアセスメントと治療

評価方法	筆記試験、その他（提出物、出席状況、授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。
教科書・参考書文献等	創傷管理学実習Ⅰ
授業形式	スクーリングによる講義、実習。
備　考	事前学習しているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

授業科目名	精神疾患管理学実習	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	60
授業形態	実習					単位数	2

授業目的	精神及び神経症状のある患者に対し、適切に状態を評価し、安全に薬剤を投与できる基本的な知識を得る。
到達目標	医師の指示の下、手順書により、身体所見、食事摂取量等及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗けいれん剤の臨時の投与ができるようになる。 ・　医師の指示の下、手順書により、身体所見、食事摂取量等及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗精神病薬の臨時の投与が行えるようになる。 ・　医師の指示の下、手順書により、身体所見、食事摂取量等及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗不安薬の臨時の投与が行えるようになる。 ・　手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 ・　医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 ・　実施、報告の一連の流れが適切に行える。
回数	授　業　内　容
	1. 精神・神経系の局所解剖 2. 神経学的主要症候 3. 精神医学的主要症候 4. 主要な神経疾患と病態生理 5. 主要な精神疾患と病態生理 6. 主要な神経疾患のフィジカルアセスメント 7. 主要な精神疾患の面接所見 8. 神経学的検査 9. 心理・精神機能検査 10. 精神・神経系の臨床薬理（副作用、耐性と依存性を含む）

評価方法	筆記試験、その他（提出物、出席状況、授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。 全日病 S-QUE 看護師特定行為研修 e-ラーニングの授業は、コマ毎に確認テストがあります。
教科書・参考書文献等	精神疾患管理学実習
授業形式	スクーリングと e-ラーニングによる講義。 ※全日病 S-QUE 看護師特定行為研修 e-ラーニング（学内外よりアクセス可）
備　考	事前学習をしているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

授業科目名	疼痛管理学実習	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	60
授業形態	実習					単位数	2

授業目的	・硬膜外麻酔に関する局所解剖・作用機序と特徴について学ぶ ・硬膜外麻酔を必要とする主要疾患の病態生理・フィジカルアセスメントについて学ぶ ・硬膜外麻酔の適応と禁忌について学ぶ ・病態に応じた硬膜外麻酔薬の選択と投与量の調整の判断基準を学ぶ ・硬膜外麻酔に伴うリスク（有害事象とその対策等）と異常時の対応を学び実践できる
到達目標	・硬膜外麻酔の局所解剖・穿刺部位選択について説明できる ・硬膜外麻酔の作用秩序と特徴について説明できる ・硬膜外麻酔を必要とする主要疾患の病態生理について説明できる ・硬膜が麻酔を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメントを説明できる ・硬膜外麻酔の適応と禁忌について説明ができる ・病態に応じた硬膜外麻酔薬の選択と投与量の調整の判断基準を理解し、実践することができる。 ・硬膜外麻酔に伴うリスク（有害事象とその対策等）を理解し、予測される有害事象と異常時の対応ができる。
回数	授　業　内　容
	スクーリングによる講義、演習、実習。実習前にはシミュレーションを実施する。 特定行為に共通して学ぶべき事項 1）硬膜外麻酔に関する局所解剖 2）硬膜外麻酔の作用機序と特徴 3）硬膜外麻酔を必要とする主要疾患の病態生理 4）硬膜外麻酔を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメント 5）硬膜外麻酔の適応と禁忌 6）病態に応じた硬膜外麻酔薬の選択と投与量の調整の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む） 7）硬膜外麻酔薬の選択と投与量の調整に伴うリスク（有害事象とその対策等） 特定行為ごとに学ぶべき事項 8）硬膜外麻酔薬の選択と投与量 9）硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整の方法
評価方法	筆記試験、（実技）試験、各種演習・実習の観察評価あり。 終了時の筆記試験、（実技）試験、各種演習・実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、演習などでの授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。
教科書・参考書文献等	疼痛管理学実習
授業形式	
備　考	事前学習しているものとして講義はすすめます。 レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

授業科目名	スキルズラボ演習Ⅰ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	60
授業形態	演習					単位数	2

授業目的	高度な看護実践（特定行為）を行うのに必要な臨床判断を身に付けるため、事例検討やシミュレーター、動画教材を使用したトレーニングを行う。また、グループディスカッションにより思考過程を整理し、適切な判断や対処法を習得する。
到達目標	1)医学の思考プロセスを学び、看護過程で行う臨床判断や特定行為に応用し、展開できる。 2）安全に配慮した手順で特定行為を実践できる。 3）自身の臨床的思考過程を整理し、他者に論理的に伝えることができる。
回数	授　業　内　容
	呼吸器（気道確保）関連 呼吸器（人工呼吸療法）関連 呼吸器（長期呼吸療法）関連 循環器関連 胸腔ドレーン管理関連 腹腔ドレーン管理関連 ろう孔管理関連 栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連 創傷管理関連 創部ドレーン管理関連 動脈血液ガス分析関連 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

評価方法	トレーニングへの取り組み、討論への参加度、成果物、出席状況により評価します。
教科書・参考書文献等	スキルズラボ演習Ⅰ
授業形式	看護師特定行為研修センター演習室で実施する。
備　考	高度実践コース（特定行為領域）の院生を対象とする。

授業科目名	スキルズラボ演習Ⅱ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	60
授業形態	演習					単位数	2

授業目的	高度な看護実践（特定行為）において必要な手技を習得する。難易度の高い特定行為を安全安楽に実施するために、外科的基本手技やデバイスの交換など、シミュレーターを使用した手技練習や動画教材を用いたトレーニングを行う。
到達目標	1)医学の思考プロセスを学び、看護過程で行う臨床判断や特定行為の手技・手順に応用し、展開できる。 2）安全に配慮した手順で特定行為を安楽に実践できる。 3）自身の臨床的思考過程を整理し、他者に論理的に伝えることができる。
回数	授　業　内　容
	呼吸器（気道確保）関連 呼吸器（長期呼吸療法）関連 循環器関連 胸腔ドレーン管理関連 腹腔ドレーン管理関連 ろう孔管理関連 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連 創傷管理関連 創部ドレーン管理関連 動脈血液ガス分析関連

評価方法	トレーニングへの取り組み、討論への参加度、成果物、出席状況により評価します。
教科書・参考書文献等	スキルズラボ演習Ⅱ
授業形式	看護師特定行為研修センター演習室、附属病院内スキルズラボにて実施する。
備　考	高度実践コース（特定行為領域）の院生を対象とする。

授業科目名	周麻酔期看護特論	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	講義					単位数	2

授業目的	周術期医療の動向を踏まえ、最新の麻酔科学を核として、周麻酔期看護に必要な最新の専門知識を習得する。
到達目標	1）対象の特性や手術を踏まえた麻酔管理法を理解できる。 2）麻酔や手術による生体侵襲から起こり得るリスクを捉え、モニタリングができる。 3）周麻酔期看護の特殊性と役割を説明できる。
回数	授　業　内　容
	周麻酔期 第1・2回　周術期医療概論 手術侵襲と生体反応、麻酔と侵襲、術後回復促進する医療 周術期管理チームの役割、周麻酔期看護師の役割 第3回 術前管理 術前のリスク評価、医療面接 第4回 術前管理 麻酔計画、インフォームドコンセント、麻酔準備、手術室管理 第5回 術中管理 術前の準備，麻酔の導入 第6回 術中管理 基礎的生理学とモニタリング 第7回 術中管理 麻酔の維持，手術体位、二次障害防止のケア 第8回 術中管理 麻酔からの覚醒，危機管理 第9回 術中管理 各種手術の麻酔 第10回　術中管理 各種手術の麻酔 第11回　術後管理 術後合併症管理 第12回　術後管理 急性術後合併症管理 集中治療 第13回 呼吸器系の治療管理 第14回 循環管理の治療管理 第15回 代謝管理の治療管理
評価方法	プレゼンテーション、討論への参加度、出席状況により評価します。
教科書・参考書文献等	周麻酔期看護特論
授業形式	
備　考	

授業科目名	周麻酔期看護演習Ⅰ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	手術麻酔に必要な知識と技術を多くの症例より学ぶ。特に麻酔科医の思考回路を理解し、患者に寄り添える麻酔看護学を身につける。 さらに文献検討により最新の知見を得て、周麻酔期看護の役割と専門性、技術（開発）について探求する。
到達目標	1）Evidence Based Medicine（EBM）や理論の成り立ちから症例検討の重要性が理解できる。 2）研究成果や EBM を学び、実践に応用することの意義が理解できる。 3）周麻酔期看護の動向やトピックスから、発展性のある臨床的な課題を抽出し、明確化する。
回数	授　業　内　容
	手術麻酔、周麻酔看護に関する Evidence Based Medicine（EBM） 手術麻酔に関する症例検討 症例検討の方法とプレゼンテーション技法 臨床麻酔、周麻酔期看護に関する文献の系統的レビュー

評価方法	プレゼンテーション、討論への参加状況。
教科書・参考書文献等	周麻酔期看護演習Ⅰ
授業形式	プレゼンテーション、討論を行う。
備　考	

授業科目名	周麻酔期看護演習Ⅱ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	30
授業形態	演習					単位数	1

授業目的	全ての人が安心・安全に手術、麻酔が受けられるよう支援するため、麻酔看護の研究に取り組む。 周麻酔期看護領域の関心のある研究課題の設定と研究方法について検討する。
到達目標	領域を術前、術中、Surgical ICU、緩和ケア、ペインクリニックに拡げて、事例や文献検討から麻酔管理や麻酔看護の実際を理解する。様々な視点から、自己の関心あるテーマから研究デザインを明確化する。
回数	授　業　内　容
	術前、術中、Surgical ICU、緩和ケア、ペインクリニックの動向とトピックス　事例検討、先行研究レビューを元にしたディスカッション

評価方法	プレゼンテーション、討論への参加状況。
教科書・参考書文献等	周麻酔期看護演習Ⅱ
授業形式	プレゼンテーション、討論を行う。
備　考	

授業科目名	周麻酔期看護実践Ⅰ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	135
授業形態	実習					単位数	3

授業目的	特定行為研修を修了した看護師が周麻酔期看護を安全に行うために必要な臨床判断力や実践力を身につける。また、合併症のない全身麻酔事例において、麻酔管理の流れと看護ケアに関する知識・技術を学び、麻酔科指導医の指導のもとでの実践し，周麻酔期看護を科学的で安全に実施する能力を培う。 　臨床麻酔を踏まえた周麻酔期看護と医学的思考過程を参考にした特定行為実践を統合し、臨床で応用する。研究課題や評価方法を探索しながら実習を行う。
到達目標	1）手順書により特定行為を安全で確実な手技で実施できる。 2）対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、安全な特定行為を実践できる。 3）手順書の評価・改良ができる。 4）推論を活かし、指導者に系統立てて簡潔で的確な報告ができる。 5）周麻酔期において特定看護師の実践のあり方について考察できる。 6）臨床実践における課題や実践の評価について考察し、言える。
回数	授　業　内　容
	術中麻酔管理領域の特定行為を含めた看護ケアの実践

評価方法	実習記録、実習の観察評価、実習への取り組みを重視し、その他（提出物、出席状況など）を加味し、総合的に評価します。
教科書・参考書文献等	周麻酔期看護実践Ⅰ
授業形式	附属病院　麻酔科・手術部
備　考	

授業科目名	周麻酔期看護実践Ⅱ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	45
授業形態	実習					単位数	1

授業目的	ハイリスク患者・緊急手術患者の疾患や病態について学び、周麻酔期間後も継続した看護を実践するために必要な知識を得る。 また、周麻酔期看護学を取り巻く現状について理解し、チーム医療の中心としての役割を実践できる。 自らが高度看護実践モデルを示し、後進の育成に参画する。
到達目標	1）手順書により特定行為が安全に実施できる。 2）ハイリスク患者・緊急手術患者の疾患や病態に合わせて必要となる治療や継続看護が説明できる。 3）チーム医療の中で特定看護師として効果的に調整できた事例を報告できる。 4）周麻酔期における特定看護師の実践の在り方について説明することができる。

回数	授　業　内　容
	段階的に高度な臨床推論を必要とするリスク患者での周麻酔期看護の実践 周術期管理チームの見学 実践者教育、On the Job Training について

評価方法	実習記録、実習の観察評価、実習への取り組みを重視し、その他（提出物、出席状況など）を加味し、総合的に評価します。
教科書・参考書文献等	周麻酔期看護実践Ⅱ
授業形式	附属病院　麻酔科・手術部
備　考	高度実践コース（特定行為領域） Advanced コースであり、周麻酔期看護実践Ⅰを履修済、もしくは特定行為研修を術中麻酔管理領域の研修を修了した者で、これと同等であるとみなされること。

授業科目名	周麻酔期看護実践Ⅲ	担当教員	北川　裕利 教授 看護師特定行為研修センター	年次 前・後期	1～2年次	時間数	45
授業形態	実習					単位数	1

授業目的	さらに多様な臨床場面において実践者に必要なスキルを統合させた Advanced 実習とする。術前外来（術前評価）、術中管理、緩和ケア、ペインクリニック、Surgical ICU、外科等を周術期の流れとして理解し、シームレスな看護実践ができるよう必要な知識を習得し、実践できる。さらに、外科術後管理に関連のある特定行為を修得し、活用する。 また、周麻酔期看護の専門性の確立に向けて、後進の指導により、周麻酔期看護の実践者教育（指導方法）について考察する。
到達目標	1）領域の異なる対象に適した手順書に改良しながら、安全に特定行為が実施できる。 2）各ユニットで異なる麻酔管理法、患者管理の違いが理解できる。 3）麻酔領域と外科領域の特定行為を複合した看護実践の活用方法を見出すことができる。 4）助言を受けながら、組織横断的活動をするために必要なマネジメントや仕組みを活用できる。 5）周麻酔期看護の専門性を捉え、後進の育成に必要な教育、指導方法について考察できる。
回数	授　業　内　容
	多様な臨床場面、多様な治療を受ける対象に対する Advanced 実習である。 各領域における麻酔管理、患者管理 術中麻酔管理領域、さらに麻酔外科術後管理の特定行為を含めた看護ケアの実践、看護継続性

評価方法	実習記録、実習の観察評価、実習への取り組みを重視し、その他（提出物、出席状況など）を加味し、総合的に評価します。
教科書・参考書文献等	周麻酔期看護実践Ⅲ
授業形式	附属病院内
備　考	高度実践コース（特定行為領域） Advanced コースであり、周麻酔期看護実践Ⅰを履修済、もしくは特定行為研修を術中麻酔管理領域の研修を修了した者で、これと同等であるとみなされること。

参　考

看 護 学 特 別 研 究 履 修 計 画

１．２年間を通して、各領域の基礎および専門となる勉強をします。履修案内を参考に指導教員と相談のうえ、授業科目を決定します。
２．１年次前期においては、研究テーマを明確にし、研究テーマに適した研究方法の決定を行ないます。
３．後期になると、研究計画書を作成し、データの収集等の準備を行ないます。倫理委員会に諮る必要のある場合は、申請をします。
４．研究デザイン発表会が実施されますので、発表できるように準備をします。発表会での質疑及び助言を参考とし、研究デザインを修正します。

学位論文（修士）審査に係る日程について

１年次

１年後期の「看護学研究方法論Ⅴ」の授業の中で研究デザイン発表を実施する。
（１人あたり発表１５分、質疑応答１５分）

⬇

［質疑及び助言を参考とし、研究デザインを修正する。］

⬇

２年次

９月　中間発表会（看護第１講義室）（１人あたり発表８分、質疑応答７分）

⬇

［中間発表会での質疑及び助言を参考とし、修士論文を作成する。］

⬇

１２月　修士論文題目の提出
（指導教員の承認を得て学生課大学院教育支援係まで）

⬇

１月　修士論文提出締め切り
（指導教員の承認を得て学生課大学院教育支援係まで）

⬇

２月　研究発表会の公示及び通知

研究発表会開催（看護第１講義室）
（１人あたり発表２０分、質疑応答１０分）

最終試験の実施
（審査委員から修士論文を中心に関連分野について口頭試問等により実施）

⬇

３月１０日（土、日により変更有り）
学位授与式

（備考）上記は大まかな流れ（予定）を示したものであり、詳細及び変更等については、その都度指導教員又は学生課から連絡します。

なお、７月の修士論文審査の出願についての詳細は、指導教員、該当学生に連絡します。

学位論文（修士）提出の手引

修士の学位（以下「学位」という。）の授与を受けるためには、滋賀医科大学学位規程等の他に詳細な手続上の取り決めがあるので、あらかじめこの手引を熟読し手続に遺漏のないように留意すること。

１　学位論文（以下「修士論文」という。）審査出願手続の前に

（１）修士論文審査出願者の資格

修士論文審査を願い出ることができる者は、本学大学院医学系研究科修士課程の最終学年に在学し、所定の単位を修得した者又は修士論文を提出する日の属する学年末までに所定の単位を修得する見込みの者で、かつ必要な研究指導を受けた者とする。

（２）修士論文

①　修士論文は、原則として単著とし１編に限る。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

②　修士論文が共著の場合は、次の各項の要件を満たす場合に限り提出できる。

ア　修士論文提出者は、筆頭著者であること。

イ　修士論文提出者は、他の共著者から当該論文を修士論文として使用しても差し支えない旨の承諾を得ていること。

ウ　修士論文提出者は、他の共著者が当該論文を修士論文として使用しない旨の承諾を得ていること。

エ　修士論文提出者は、その研究において自ら担当した部分を明記した報告書を作成すること。

２　修士論文審査出願手続等

（１）修士論文審査出願手続

①　修士論文審査の提出期限（年２回）

第１回　令和２年７月１日（水）

第２回　令和３年１月５日（火）

②　修士論文等の提出先

修士論文等は、指導教員の承認を得た上で学生課大学院教育支援係に提出すること。

③　提出書類

ア　修士論文審査願	１部
イ　履歴書	１部
ウ　学業成績証明書	１部
エ　修士論文が共著論文である場合は承諾書	１部
オ　修士論文の利益相反申告書	１部
カ　論文目録	５部
キ　論文内容要旨	５部
ク　修士論文が共著論文である場合は自己の担当部分についての報告書	５部
ケ　修士論文（**表紙をつける**）	５部
コ　参考論文がある場合は当該論文（**表紙をつける**）	５部

④　提出時の注意

提出書類は、Ａ４サイズの紙の２穴ファイルを用いて、５分冊（正本１冊、副本４冊：カ・キ・ク・ケ・コの順に綴じる）にして提出すること。なお、１部の提出書類および、上記以外にカ・キ・ク各１部をクリップ等でまとめて提出すること。

また、提出書類の記載事項に誤記等があれば、訂正を指示することがあるので必ず出願者本人が持参すること。

（２）修士論文審査及び研究発表会

修士論文は、大学院委員会に設けられた審査委員会で審査されるが、審査の過程において研究発表会を開催するので準備しておくこと。

（３）最終試験の方法

最終試験は、審査委員会で修士論文を中心として、その関連分野について口頭試問又は筆答試問の形で実施される。

（４）学位記の授与

審査委員会による修士論文の審査結果及び最終試験の結果は、大学院委員会に報告され、大学院委員会の議に基づき、学長から学位授与の可否及び授与日について本人並びに指導教員に通知される。

３　修士論文及び参考論文の提出様式

修士論文及び参考論文は以下の様式により提出すること。

（１）修士論文

①　表紙（本文が印刷製本されている場合も必要）

ア　題目は、論文の内容を具体的かつ簡潔に示すものとし、論文が日本語の場合は日本語で、外国語の場合は、外国語で記載すること。

　なお、外国語の場合は、題目の下に（　）書で和訳を付記すること。

イ　略語は、題目の中ではごく一般化されたもの以外は原則として使用しないこと。

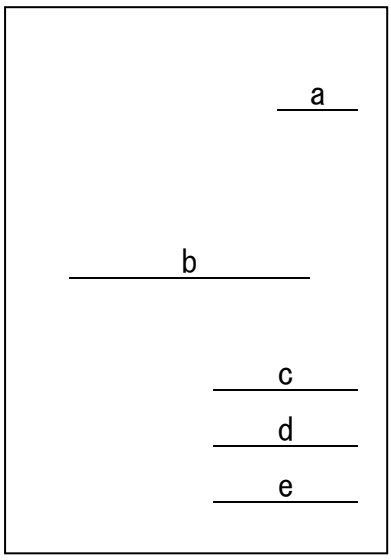
ウ　副題を付けることは差し支えないができるだけ簡潔なものにすること。

エ　著者名は、称号を付けず姓名を略さずに記載すること。

（戸籍抄本と一致させること。）

オ　各ファイルの表にも同様の表紙を貼付すること。

表 紙 の 様 式



a　修士論文又は参考論文の別（参考論文が２編以上ある場合は、論文目録の記載順に番号を付けること。）

b　題目

c　専攻領域

d　指導教員

e　学位申請者名

②　本文（印刷されていない場合）

ア　使用する用紙は、修士論文が日本語の場合はＡ４判縦（約 21 ㎝×30 ㎝）、外国語の場合は国際判（約 22 ㎝×28 ㎝）又はＡ４判縦（約 21 ㎝×30 ㎝）とすること。

イ　各用紙に頁数を付し、目次をつけること。

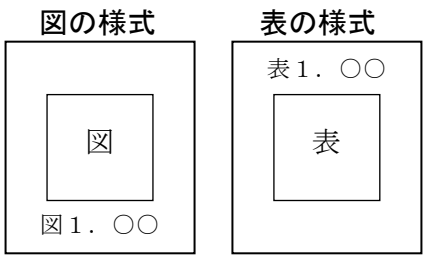
ウ　１頁は４０文字×３０行（1200 字）程度とし、上下左右のマージンは 30㎜とすること。

エ　提出する修士論文５部のうち１部は原本、他は副本とし副本は原本のコピーでもよい。

オ　修士論文は、左端中央を一箇所、ホッチキスで止めて、２穴ファイルに綴ること。（のり付け製本用透明表紙不要。）

カ　副本の写真は、原本同様にオリジナル・プリントを使用すること。

キ　図表がある場合は図表の目次を別に作り、図・表とともに本文の最後にまとめて付けること。なお、図・表とも１頁に１つ中央に配置し、タイトル（図は下、表は上）を付けること。



ク　修士論文は、受理後ただちに審査に入るので提出後に訂正等のないように吟味・推敲の上、完成したものを提出すること。

ケ　受理した修士論文は返却しないので、申請の際に写しを取っておくことが望ましい。

（２）参考論文

参考論文として、修士論文を補足する論文あるいは関連分野の論文を提出することができる。

なお、参考論文作成については、修士論文に準ずること。

４　その他の提出書類記入上の留意事項

（１）論文目録

①　論文題目が外国語の場合には、（　）で和訳を付記すること。

②　修士論文及び参考論文の公表が予定されている場合は、その旨を記載すること。

③　参考論文は、参考として添付する他の論文を列記すること。

（２）論文内容要旨

①　要旨は、研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に区分して要約すること。

②　要旨は、１２００字程度（1100～1300 字）とすること。

③　論文題目が外国語の場合には、（　）で和訳を付記すること。

（３）承諾書

修士論文が共著による場合は、必ず共著者全員の承諾書を添付すること。

（４）履歴書

①　氏名は、戸籍抄本どおり記載し、通称・雅号等一切用いないこと。

なお、最下行の氏名は、必ず自署すること。

②　学歴は、大学入学以後の学歴を年代順に記載すること。

修士論文審査における研究発表会に関する申し合わせ

平成１１年　３月１０日
大 学 院 委 員 会 決 定

滋賀医科大学学位論文（修士）審査実施要項第３第４項の規定に基づき次のとおり定めるものとする。

（名　　称）

１　大学院修士課程研究発表会と称する。

（発 表 者）

２　発表者は、修士論文審査出願者とする。

（発表時期）

３　修士論文審査の過程において開催することとし、発表者及び論文題目並びに開催日時、場所等については、掲示及び通知により周知する。

（発表方法）

４　(1)　発表会は、公開とする。

(2)　発表は、パワーポイント、スライド等を用いて各自 20 分程度で行い、その後質疑応答時間を設けることとする。

（発表内容）

５　修士論文に関する研究内容とする。

（司　　会）

６　研究発表会の司会は、それぞれの修士論文審査委員主査が行うものとする。

（研究発表会の事務）

７　研究発表会に関する事務は、学生課において取り扱うものとする。

学位論文（修士）審査の判定基準

平 成 １ ５ 年 ８ 月 ５ 日
大学院委員会看護学小委員会了承
平成１９年３月７日一部改正
看 護 学 系 大 学 院 委 員 会 了 承
平成２５年８月１日一部改正
看 護 学 系 大 学 院 委 員 会 了 承

学位論文（修士）の審査にあたっては、次のとおりのチェック・ポイントで判定することとする。

１．独創性

２．研究の背景・目的・意義は明確か

３．研究方法は最適か

４．倫理的配慮が十分なされているか

５．結果の解析や考察は適切か

６．今後の研究の発展性、看護学の発展に貢献性はあるか

７．論文発表の方法、質疑応答の適切さ